

**令和 8 年度
科目案内**

「北 稜 シラバス」

2 年 生

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	論理国語	2	2年生 総合探究コース	
教科書	『精選 論理国語』 (東京書籍)	副教材	『新 常用漢字パーフェクトクリア三訂版』(尚文出版) 『トータルサポート新国語便覧 改訂版』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(知識および技能)
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語活動を行うために必要な語彙や文法事項などを理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれたものを正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法の知識/情報の扱い方/読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 論理的に/豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力/読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

読む力も書く力も、一朝一夕には身につけません。こつこつ頑張りましょう。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	論理国語 読1「発見への誘い」	・読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	表現	教科書 『いつもそばには本があった』	
		・具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。 ・書かれている内容を理解し、論理的に考えることの意義を知る。	表現	教科書 『ミロのヴィーナス』 「論理の力を鍛えよう」	
				中間考査	
	文学国語 読1「小説1」	・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	表現 国際	教科書 『山月記』 「文学への扉 変身ということ」	
	論理国語 読3「言語と認識」	・具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ・質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。 ・「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、適切に要約する力を養う。	表現 国際 表現	教科書 『相手依存の自己規定』 「論理の力 質問する力」 「論理の力 要約する力」	
				期末考査	
2	論理国語 読4「人間を見つめる」	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	表現	教科書 『メディアの変容』	
	文学国語 読2「小説3」	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。	表現	教科書 『ころも』 「襖という道具」	
				中間考査	
	文学国語 読3 言語活動「書評を書く」	・選んだ本の内容を解釈して、作品の紹介と内容の評価を区別し、書評を書く。	表現	教科書 「書評を書く」	
	論理国語 書1「仮説を立てて検証する」 「図表の読み取り方」	・仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。	表現	教科書 「仮説を立てて検証する」 「図表の読み取り方」	
論理国語 書2 言葉のトレーニング 「統計資料をもとに考察する」	・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み、説得力のある根拠の示し方を理解する。	表現	教科書 『地方都市を考える』		
				期末考査	
3	文学国語 読4「詩歌」	・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。	表現	教科書 『永訣の朝』	
	文学国語 書1 言語活動 「共同で詩を創作する」	・共同で詩を創作して意見を交換し、詩に対する自らの価値観を捉え直す。	表現	教科書 「共同で詩を創作する」	
	論理国語 読5「社会を捉え直す」	・例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。 ・書かれている内容を理解し、『「である」ことと「する」こと』を読み深める。	表現	教科書 『「である」ことと「する」こと』 「唯名論と実在論」	
				学年末考査	

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	文学国語	1	2年生 総合探究コース	
教科書	『文学国語』 (東京書籍)	副教材	『トータルサポート新国語便覧 改訂版』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(知識および技能)
- ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語文化を理解するために必要な語彙や文法事項を理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれた内容を正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法、文学史の知識/読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 共感的に/豊かに考えられているかどうか、他者と関わりの中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力/読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

たった1単位しかありませんが、皆さんの一生に残る文学との出会いがあると期待しています。ぜひ、想像の翼を大きく広げて下さい。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	論理国語 読1「発見への誘い」	・読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	表現	教科書 『いつもそばには本があった』	
		・具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。 ・書かれている内容を理解し、論理的に考えることの意義を知る。	表現	教科書 『ミロのヴィーナス』 「論理の力を鍛えよう」	
				中間考査	
	文学国語 読1「小説1」	・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	表現 国際	教科書 『山月記』 「文学への扉 変身ということ」	
	論理国語 読3「言語と認識」	・具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ・質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。 ・「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、適切に要約する力を養う。	表現 国際 表現	教科書 『相手依存の自己規定』 教科書 「論理の力 質問する力」 「論理の力 要約する力」	
				期末考査	
2	論理国語 読4「人間を見つめる」	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	表現	教科書 『メディアの変容』	
	文学国語 読2「小説3」	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。	表現	教科書 『ころも』 「襖という道具」	
				中間考査	
	文学国語 読3 言語活動「書評を書く」	・選んだ本の内容を解釈して、作品の紹介と内容の評価を区別し、書評を書く。	表現	教科書 「書評を書く」	
	論理国語 書1「仮説を立てて検証する」 「図表の読み取り方」	・仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。	表現	教科書 「仮説を立てて検証する」 「図表の読み取り方」	
論理国語 書2 言葉のトレーニング 「統計資料をもとに考察する」	・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み、説得力のある根拠の示し方を理解する。	表現	教科書 『地方都市を考える』		
				期末考査	
3	文学国語 読4「詩歌」	・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。	表現	教科書 『永訣の朝』	
	文学国語 書1 言語活動 「共同で詩を創作する」	・共同で詩を創作して意見を交換し、詩に対する自らの価値観を捉え直す。	表現	教科書 「共同で詩を創作する」	
	論理国語 読5「社会を捉え直す」	・例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。 ・書かれている内容を理解し、『「である」ことと「する」こと』を読み深める。	表現	教科書 『「である」ことと「する」こと』 「唯名論と実在論」	
				学年末考査	

令和8年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典探究	3	2年生 総合探究コース	
教科書	『精選 古典探究』 (大修館書店)	副教材	『トータルサポート新国語便覧 改訂版』(大修館書店) 『四訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』(いっずな書店) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識および技能)
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・1年次に学習した基本的な知識や読解力を定着、伸長させるために、古語の意味と読み、文法知識を反復練習する。
- ・古典単語の小テストを積み重ねることで、語句の知識を身につける。
- ・グループワークに積極的に参加することで自分以外の考えに触れ、深く作品を理解する。
- ・古文漢文ともに、登場人物や場面を意識しながら本文を丁寧に読み、授業ノートで内容を復習してから考査に臨めるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 古典を読むために必要な語句や文法事項などを理解し、知識を身につけているか、また書かれたものを正確に読解できているかを評価します。	・定期考査 ・小テスト
②思考・判断・表現 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか、書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈しているか、作品の内容と自分の知見を結び付けて考えを広げたり深めたりしているかを評価します。	・定期考査 ・パフォーマンス評価(発表・発言・記述等) ・提出された課題等
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強く取り組んでいるか、また、その取り組みの中で自らの学習を振り返り、調整できているかを評価します。	・自己評価 ・定期考査 ・提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてください。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	説話	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を復習する。	表現	教科書 『宇治拾遺物語』	
	故事・逸話	・故事成語の成り立ちや展開、現代日本での役割を理解し、発表する。 ・1年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。	表現 国際	教科書 『知音』 『画竜点睛』	
	中間審査				
	漢詩	・押韻や対句に注意して、近体詩の形式や表現について理解する。 ・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、深く味わって詩的世界を理解する。	表現	教科書 「竹里館」 「登岳陽楼」	
	随筆(一)	・仏教的無常観にもとづく、作者の思想を理解する。 ・対になる表現や比喻などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	表現	教科書 『方丈記』	
期末審査					
2	随筆(一)	・中世的無常観にもとづく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。	表現	教科書 『徒然草』 『玉勝間』	
	思想	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。	表現	教科書 『聞斯行諸』	
	物語(一)	・物語の展開を理解し、和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。 ・文章や和歌を通して、登場人物の行動と心情を読み取り発表する。	表現	教科書 『伊勢物語』	
	中間審査				
	史伝	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 ・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係をふまえながら読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。	表現 国際	教科書 『史記』 「鴻門の会(一)」	
物語(二)	・登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。 ・敬語の意味と用法について整理し理解する。	表現	教科書 『源氏物語』		
随筆(二)	・敬語の意味と用法について整理し、敬意の方向や現代語訳を正確に捉える。	表現	教科書 『枕草子』		
期末審査					
3	日記	・作者の立場を理解し、その心情を読み取り、意見として発表・交換する。	表現	教科書 『土佐日記』	
	史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。 句法についてペアやグループワークで確認する。	表現	教科書 『史記』 「鴻門の会(二)」	
	物語(二)	・物語中の人物描写などを味わい、作品をとりまく時代の背景、文化的環境についての理解を深める。	表現	教科書 『源氏物語』	
	中間審査				
	史伝	・内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことについて、調べて発表したり議論したりする。	表現	教科書 『史記』 「項王の最期」	
物語(三)	・作品に表れた人間、社会、自然に対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・敬語表現を文法的に正しく理解し識別する。	表現	教科書 『大鏡』		
思想	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。 ・中国古代思想史について興味をもち、現代に与えた影響について理解する。	表現 国際	教科書 「小国寡民」		
学年末審査					

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	歴史総合	3	2年総合探究コース	
教科書	わたしたちの歴史(山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

受け身にならないためにも事前に教科書を一通り読んで、問題意識を持って授業に臨んでください。問題意識をもつためにも疑問に思ったことは恐れずに質問するか、自らの力で調べる努力をしてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・近現代の歴史の変化に関わる事柄について、広い視野から捉え、近現代の歴史が理解できる。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 ※定期テストを中心に評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	学習した内容や調べた内容を多面的・多角的に考察できる。またその考察したことを説明したり、それらをもとに議論したりできる。 ※定期テスト、授業ノート提出、グループ学習を中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	現代と過去の関連性を認識し、現代の世界における諸課題への関心を深めている。 ・諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができる。 ※授業ノート・課題プリント提出および発表・授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

現代日本や世界の姿を、歴史の到達点として学びます。日本史、世界史と縦軸・横軸に移動しながら考察する科目です。世界史・日本史の枠にとらわれることなく、近代化、グローバル化、そして大衆化の三点で新しい歴史像を創造していきましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習活動	
1	<p>歴史の扉 学校の歴史 学校給食の歴史</p>	<p>□歴史のなかで学校の意義を理解することによって、「いま」の状況や課題を理解できる。 □日本の学校の特徴を国際比較のなかで整理できる。 □「学校給食の歴史」を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解できている。</p> <p style="text-align: right;">国際 表現</p>	<p>授業ノート提出 課題プリント提出 グループ学習 など 中間考査 期末考査</p>
	<p>第一部 近代化と私たち ・結びつく世界 ・18世紀の世界と東アジア ・産業革命 ・アヘン戦争と日本 ・日本の開国 ・日本開国期の国際情勢 ・開国後の日本社会 ・市民革命と国民統合 ・明治維新 ・富国強兵と文明開化 ・日本の明治初期の外交 ・大日本帝国憲法の制定 ・日本の産業革命と日清戦争 ・帝国主義 ・日露戦争と韓国併合</p>	<p>□18世紀の交通や交易の姿を理解するとともに、アジアや日本における生産と流通を大局的に理解できる。 □産業革命の基本的な構造を理解するとともに、それが世界に与えた影響について理解し、説明ができる。 □欧米諸国のアジア進出を理解するとともにアヘン戦争が日本に与えた影響(鎖国から開国に至るまで)を理解できる。 □市民革命と明治維新を、資料をもとに比較、考察できる。国際 表現 環境 □日本の近代化、特に文明開化について資料を収集して、その特徴を整理できる。 □東アジア各国と近代日本との関係を外交資料をもとに、考察・理解できる。 □大日本帝国憲法の内容を西欧諸国の憲法と比較し、さらに現憲法から照射することによって時代の空気をイメージできる。 □日清戦争前後の日本国内の産業発達を世界史との関わりで把握、理解できる。 □帝国主義の基本的な特徴を理解するとともに、地図上の作業で整理することによってイメージ化ができる。 □日露戦争前後の国際情勢および顛末を整理・理解できる。日本がはじめて経験した総力戦のあり方を太平洋戦争と比較・検討することができる。 □日朝関係史を古代から概観で把握するとともに、日韓併合後の植民地政策を整理・理解できる。</p>	
2	<p>第二部 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・大衆運動の芽ばえ ・第一次世界大戦 ・第一次世界大戦と日本 ・ロシア革命とその影響 ・社会運動の広がり ・国際協調 ・アジアの民族運動 ・大衆社会の到来 ・世界恐慌 ・独裁勢力の台頭 ・日本のアジア進出 ・第二次世界大戦 ・第二次世界大戦と日本 ・第二次世界大戦の終結 ・戦後国際秩序 ・冷戦の始まり ・日本の戦後改革と日本国憲法 ・日本の独立</p> <p>第三部 グローバル化と私たち ・第三世界の登場 ・冷戦の固定化と「雪どけ」 ・冷戦の展開 ・55年体制と安保闘争 ・高度経済成長の光と影</p>	<p>□産業革命以降に芽生える大衆運動を普通選挙獲得運動、労働運動や女性解放運動など多角的な視野で把握することができる。 □第一次大戦に至る世界情勢を地図や勢力均衡図などの資料を通じて理解できる。 □第一次大戦に日本が参加した理由(中国での勢力伸長、経済危機の克服など)を資料を通じて理解するとともに、それが戦後の国際社会にどのような影響を与えたのか理解できる。 □ロシア革命のもつ意味、またそれが国際社会に与えた影響を理解するとともに、1920年代の日本の市民運動や社会運動の伏流水となっていく点を例をあげて説明できる。 □戦後の国際連盟誕生・軍縮の流れに日本がなぜ、どのように協調していったのか、国際社会との関係で理解できる。 □大戦景気により生まれる大衆消費社会が戦後恐慌以降の日本の景気低迷のなかでどのように展開していくのか、戦後のアメリカの経済繁栄とその破綻を視野に入れて説明・理解できる。 □戦後の共和国ドイツがナチス政権をなぜ受け入れていったのか、当時の資料をもとに考察・理解できる。 □日本の協調外交が破綻し、日中十五年戦争に突入していく流れを把握し理解できる。 □第二次大戦に至る各国の意図を把握するとともに、独ソ戦に至るまでの流れを理解できる。 □太平洋戦争の流れ、及び戦時下の統制経済や国民生活を当時の資料をもとに分析、理解できる。 □大戦の終結に至る流れの中で「沖繩戦」「原爆投下」などの主題を分析し、考えを深めることができる。 □戦後の日本の民主化政策について多角的に理解できる。 □冷戦構造を世界地図をもとに把握するとともに、冷戦が日本の民主化に与えた影響を考察できる。 □日本国憲法の成立過程とその普遍的な性格を理解するとともに、冷戦のなかで憲法解釈がどのように変化していったのかを説明できる。 □冷戦のなかでの日本の独立とその性格(本土のみの独立)を把握するとともに、日本が国際社会でどのような地位を占めていくか展望できる。 □AALA諸国の独立により国際社会が三極化していく動きを把握する。 □キューバ危機から「雪どけ」の流れを概観し、その後の冷戦の展開を核軍縮の動きとともに理解できる。 □資料をもとに安保闘争の論点を整理することによって、冷戦のなかで成立した日米安保条約の問題点を浮き彫りにして整理できる。 □具体例をあげて高度経済成長の功罪を整理して説明できる。特に四大公害裁判については資料を収集して発表、説明ができる。</p> <p style="text-align: right;">国際 表現 環境</p>	<p>授業ノート提出 課題プリント提出 グループ学習 など 中間考査 期末考査</p>
3	<p>・ベトナム戦争とアメリカ ・経済構造の変化 ・日本の経済大国化 ・アジアの経済成長 ・社会主義の停滞と新自由主義 ・冷戦の終結 ・冷戦後の地域紛争 ・地域統合 ・現代世界の諸課題 ・日本の諸課題</p>	<p>□ベトナム戦争に介入したアメリカや米軍基地のある日本の動き・市民運動を新聞資料などをもとに分析して整理できる。 □70年代以降アメリカの国際社会からの後退と世界の五極化現象～冷戦の終結までを地図資料などをもとに分析、整理できる。 □80年代の日本の経済大国化からバブル崩壊までを具体的な例をあげながら説明、理解できる。 □冷戦終結後の地域紛争、民族紛争の特徴を例をあげて説明、理解できる。 □現代の日本の諸課題(景気低迷 少子化 格差社会 環境問題など)をひとつあげ、今まで学んだ歴史から照射して整理、発表できる。</p> <p style="text-align: right;">国際 表現 環境</p>	<p>授業ノート提出 課題プリント提出 グループ学習 など 中間考査 学年末考査</p>

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅱ	3	2年総合探究コース	
教科書	数研出版 新課程 最新 数学Ⅱ	副教材	数研出版 3ROUND 数学Ⅱ	

1. 学習の目標

式と計算、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。
 【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。
 【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 与えられた課題に対して、数学を用いて表現する力を評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシート 自分の学習に対する姿勢を誠実に振り返ることができるかを評価します。 ・週末課題(ノート)等 自分の理解状況に応じて、問題集に取り組み直しをするなど、前向きに取り組む姿勢を評価します。

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

令和8年度北稜シラバス

学期	学習内容	到達目標			学習活動	自己評価
		到達レベル	レベル1	レベル2		
1	複素数とその計算	<input type="checkbox"/> 虚数単位 i の意味を理解できる。	<input type="checkbox"/> 複素数 $(a+bi)$ の四則演算ができる。 <input type="checkbox"/> 負の数の平方根の計算をすることができる。	<input type="checkbox"/> 複素数の相等条件を理解し、実部、虚部を決めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表	
	2次方程式の解	<input type="checkbox"/> 解の公式を用いて2次方程式の解を複素数の範囲で求めることができる。	<input type="checkbox"/> 解の判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。	<input type="checkbox"/> 2次方程式の解の種類から、2次方程式の係数を求めることができる。		
	剰余の定理と因数定理	<input type="checkbox"/> 剰余の定理を用いて1次式で割ったときの余りを求めることができる。	<input type="checkbox"/> 因数定理を用いて、1次式の因数を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 3次以上の整式の因数分解をすることができる。		
	高次方程式		<input type="checkbox"/> 因数分解の公式や置き換えを用いて、高次方程式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 因数定理を利用して3次以上の整式を因数分解し、高次方程式を解くことができる。		
	直線上の点	<input type="checkbox"/> 与えられた座標を直線上に図示することができる。	<input type="checkbox"/> 直線上における2点間の距離を理解している。 <input type="checkbox"/> 直線上における内分点・外分点・中点の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 直線上における2点間の距離を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 直線上における内分点・外分点・中点の座標を求めることができる。	中間考査(50分)	
	平面上の点	<input type="checkbox"/> 与えられた座標を平面上に図示することができる。	<input type="checkbox"/> 平面上における2点間の距離を理解している。 <input type="checkbox"/> 平面上における内分点・外分点・中点・重心の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 平面上における2点間の距離を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 平面上における内分点・外分点・中点・重心の座標を求めることができる。		
	直線の方程式	<input type="checkbox"/> 直線の方程式から傾きと切片(x と y 両方)を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 平面上に直線を描くことができる。	<input type="checkbox"/> 傾きと通る1点から直線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 通る2点から直線の方程式を求めることができる。		
	2直線の関係	<input type="checkbox"/> 2直線が平行・垂直であることの意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 平行条件と垂直条件を理解している。	<input type="checkbox"/> 与えられた直線に平行・垂直な直線の方程式を求めることができる。		
	円の方程式	<input type="checkbox"/> 円の中心と半径の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 円の方程式から中心と半径を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 中心と半径から円の方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 円の方程式の一般形から中心と半径を求めることができる。		
	不等式の表す領域	<input type="checkbox"/> 領域の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 与えられた不等式の表す領域をイメージできる。	<input type="checkbox"/> 領域を図示することができる。 <input type="checkbox"/> 境界線の有無を判断できる。		
				期末考査(50分)		
2	角の拡張	<input type="checkbox"/> 度数法において一般角を図示できる。	<input type="checkbox"/> 弧度法の定義を理解し、弧度法を度数法に変換することができる。	<input type="checkbox"/> 有名角の弧度法を覚えている。	小テスト 課題(ノート)提出 グループ学習など 表現	【 】 【 】 【 】
	三角関数	<input type="checkbox"/> 三角関数の定義を理解している。三角関数の符号の変化を理解している。	三角関数の値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 相互関係の式を覚えている。	<input type="checkbox"/> 有名角の三角関数の値を覚えている。 <input type="checkbox"/> 相互関係を利用して三角関数の値を求めることができる。		
	三角関数のグラフ	<input type="checkbox"/> グラフの基本形をかくことができる。 <input type="checkbox"/> 周期を理解している。	<input type="checkbox"/> グラフを平行移動 y 軸方向に拡張することができる。	<input type="checkbox"/> グラフを x 軸方向に拡大縮小することができる。周期を求めることができる。		
	三角関数の応用	<input type="checkbox"/> 角度が θ である三角関数の方程式を解くことができる。				
	指数の拡張	<input type="checkbox"/> 指数が0や負の整数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 累乗根の意味と性質を理解し、それを含む式や値の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 指数が有理数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	中間考査(50分)	
	指数関数	<input type="checkbox"/> 指数関数の底について説明できる。	<input type="checkbox"/> 指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	<input type="checkbox"/> 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。		
	指数関数の特徴	<input type="checkbox"/> 増加関数と減少関数について知っている。	<input type="checkbox"/> 指数関数のグラフから累乗根の値の変化を予測できる。	<input type="checkbox"/> 底の値によって、増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。		
	指数関数を含む方程式・不等式	<input type="checkbox"/> 指数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、解くことができる。	<input type="checkbox"/> 指数関数の特徴を理解し、指数関数を含む簡単な不等式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 底が異なる指数関数を含む方程式の解法を理解し、解くことができる。		
	対数とその性質	<input type="checkbox"/> 対数の意味と表し方を理解している。	<input type="checkbox"/> 指数と対数の関係を理解している。	<input type="checkbox"/> 底の変換公式などの対数の性質を理解し、様々な対数を含む式の計算ができる。		
					小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など 表現	

令和8年度北稜シラバス

学期	学習内容	到達目標			学習活動	自己評価
		到達レベル	レベル1	レベル2		
	対数関数	<input type="checkbox"/> 対数関数の底について説明できる。また、指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	<input type="checkbox"/> 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	<input type="checkbox"/> 対数関数の特徴を理解し、底の値によって増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	期末考査(50分)	
	対数関数を含む方程式・不等式	<input type="checkbox"/> 真数条件について理解している。	<input type="checkbox"/> 対数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 対数関数を含む簡単な不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。		
	常用対数	<input type="checkbox"/> 常用対数がどのような対数であるか理解している。	<input type="checkbox"/> 常用対数を整理し、常用対数表から値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 常用対数が非常に大きい数や小さい数を表すときに便利であることを理解し、それを利用して桁数や小数の位を求めることができる。		
3	1. 微分係数	<input type="checkbox"/> 平均変化率を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 極限値の表し方や意味について理解し、それらを求めることができる。	<input type="checkbox"/> 微分係数の定義とその表記の仕方を理解し、それを求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など 表現	【 】 【 】 【 】
	2. 導関数	<input type="checkbox"/> 導関数がどのような関数であるか理解している。	<input type="checkbox"/> 導関数を定義に従って求める式について理解している。	<input type="checkbox"/> 様々な関数(x, y以外の変数であっても)の導関数を求めることができる。さらに、それを利用して微分係数を求めることができる。		
	3. 接線の方程式	<input type="checkbox"/> 接線の傾きと微分係数の関係がわかる。	<input type="checkbox"/> グラフ上の点における接線の傾きを求めることができる。	<input type="checkbox"/> グラフ上の点における接線の方程式を求めることができる。		
	4. 関数の増減と極大・極小	<input type="checkbox"/> 関数の増減と導関数の符号の関係について理解している。	<input type="checkbox"/> 関数の増減表を作成し、増減を調べることができる。さらに極値があるかを調べることができる。	<input type="checkbox"/> 3次関数のグラフをかくことができる。さらに、その極値を求めることができる。		
	5. 不定積分	<input type="checkbox"/> 原始関数について理解している。	<input type="checkbox"/> 不定積分や積分定数の意味とそれらの表し方を理解している。	<input type="checkbox"/> 不定積分の性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	中間考査(50分) 小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など 表現	【 】 【 】 【 】
	6. 定積分	<input type="checkbox"/> 定積分の表し方を理解している。	<input type="checkbox"/> 定積分を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 定積分の様々な性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。		
	7. 定積分と面積	<input type="checkbox"/> 定積分の図形的な意味を知っている。	<input type="checkbox"/> 曲線とx軸の間の面積を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 2つの曲線の間の面積を求めることができる。		
					学年末考査(50分)	

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【夏の課題研究】 意欲・関心	作品を提出していない。	グラフアートを描いている。	?個以上の関数を用いてグラフアートを描いている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	生物	2	2年総合探究	
教科書	啓林館 高等学校 生物 (生物703)	副教材	啓林館 センサー 生物基礎+生物 4th Edition	

1. 学習の目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験や、実験のデータなどの分析を行い、生物学的に探究する能力と態度を身につける。生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

まずは誰もが抱く「なぜなんだろう」という単純な疑問を大切にしてください。毎回の授業に積極的に参加して、授業内で疑問に思ったことがあれば、自分で調べたり、友人や教員に聞いたりして解決につなげましょう。基礎力は、考査直前だけではなく、毎回の授業後に問題演習に取り組むことで身に付きます。また予習、復習として教科書を音読することも効果的です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	定期考査、レポート内容等 観察・実験の技能・表現
②思考・判断・表現 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	定期考査、レポート内容(考察)等
③主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	受講態度、ノート・課題・レポート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

「生物」は決して暗記科目ではありません。生命がどのようにこの地球上に誕生したのか、細胞にはどのような機能が備わっているのか、体内と体外、同じ種類の生きもの、違う種類の生きもの、地球規模の環境など、大小さまざまな関係によってつくられている大きな世界の物語を理解する学問です。その一つ一つを一緒に学んでいきましょう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動(観点)	自己評価
1	第1部 第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 生物の多様性と共通性, 原始地球と有機物の生成, 有機物から生物へ, 生物の出現とその発展, 真核生物の出現と進化	生命の起源として, 無機物から有機物が生じ, 有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと, 地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。	ワークシート提出(①、②、③)	[]
	第2章 有性生殖と遺伝的多様性 2-1 有性生殖の過程としくみ	生物の形質の変化は, 遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって, 遺伝的な多様性が生じることを理解する。	ワークシート提出(①、②、③)、	[]
	2-2 遺伝子の組み合わせの変化 減数分裂と受精, 染色体と遺伝子, 遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂の過程では, 染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては, 親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で, 遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。	観察1 減数分裂の観察(①、②、③)	[]
	第3章 進化のしくみ 進化と突然変異, 集団としての進化, 実際の生物集団と進化, 種分化	遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変わることを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。	実験1 遺伝子頻度の変化シミュレーション(①、②、③) ノート提出 期末考査	[]
	第4章 生物の系統 4-1 生物の分類, 生物の系統と系統樹, 生物の系統と分類	DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から, 生物の系統を推定できることを理解する。生物が, 系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。	ワークシート提出(①、②、③)	[]
	4-2. 人類の系統と進化 人類の祖先, 人類の進化	人類が, 霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として, 直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。		[]
2	第2部 生命現象と物質 第5章 生命と物質 5-1 物質と細胞	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。	ワークシート提出(①、②、③)	[]
	5-2 生命現象とタンパク質 タンパク質とは, タンパク質の構造, タンパク質の立体構造と機能	細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	ノート提出(②、③)、 中間考査(②、③)	[]
	5-3 化学反応にかかわるタンパク質 酵素の基本的な性質, 酵素のはたらきと反応条件, 酵素反応の調節	酵素の基本的な性質と, 酵素のはたらきと反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。	実験2 カタラーゼのはたらき(①、②、③)	[]
	5-4 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 膜輸送にかかわるタンパク質, 情報伝達にかかわるタンパク質	生体膜を介した物質輸送と, それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。		[]
	第6章 代謝(進度によってはこの章を割愛することがあります)			
	1. 代謝とエネルギー 生物とエネルギー, 生体内の化学反応	生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり, 反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。		[]
2. 呼吸と発酵 呼吸とは, 呼吸の過程, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解	呼吸では, 有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され, ATP が合成されることを理解する。発酵では, 酸素を用いずに有機物が分解され, ATP が合成されることを理解する。		[]	
3. 光合成 光合成とは, 光合成のしくみ, 細菌の光合成	光合成では, 光エネルギーを用いてATPと電子の運搬体が合成され, これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。	実験3 植物の光合成色素の分離(①、②)	[]	
3	第4部 生物の環境応答 第10章 刺激の受容と反応 10-1 刺激の受容	外界または体内からの適刺激を受け取る受容体の構造とはたらきを, 目と耳を中心に理解する。	実験4 盲斑 ワークシート提出(①、②、③)	[]
	10-2 神経	刺激によって起こるニューロンの興奮とはどのようなものか, またその伝わり方について理解する。		[]
	10-3 神経系	ヒトの神経系の構造および脳の構造とはたらきについて理解する。		[]
	10-4 効果器	効果器の代表例としての骨格筋の構造と収縮の仕組みを理解する。		[]
	第11章 動物の行動 11-1 生得的行動 11-2 学習	動物の行動が遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを具体例とともに理解する。	期末考査(①、②) ノート提出	[]

理科ルーブリック

ノート・プリント提出

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	期限内に提出。全ての内容が的確に記録されている。あわせてそれ以外の授業メモも取れている。	期限内に提出。全ての内容が記録されている。	期限内には提出。所々空白部分が見られる。	期限内に提出できず。内容が不十分である。

実験・観察

	A	B	C	D
知識・技能	実験操作を、適切に行うだけでなく、実験器具等の使用目的を理解し正確に操作できる。	おおむね実験操作を適切に行うことができる。	おおむね適切に行うことができるが、一部誤った手順が見られる。	適切な実験操作を行う事ができない。

実験・観察

	A	B	C	D
思考・判断・表現	実験データを基に考察し、自分の考えをまとめ、言葉や図、グラフ等で的確に表現できる。	おおむね実験データから自分の考えをまとめられる。	実験データを整理することができるが、自分の考えを表現できない。	実験データを整理することができない。

実験・観察

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	実験の内容をよく理解し、結果を予測しながらデータを整理し、理論値との差違とその理由を考えることができる。	実験データと理論値の差違を指摘することができる。	考察がデータのみの記載にとどまり、その結果の判断が不足している。	データの記載も不完全であるか、明らかに他の生徒のものを転記している。

プレゼンテーション

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えたいという熱意が感じられる。	準備した内容を要領よく発表することができる。	発表の内容は適当であるが、データのまとめ方や発表の技術が不十分で、内容相手に十分に伝わりにくい。	発表の内容自体が稚拙で、伝えようとする意欲も感じられない。

グループ学習

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。簡潔に学習内容を発表することができる。	学習内容を理解し、結論を導き出すために協調して作業することができる。	学習内容は理解しているが、積極的に作業に参加する意欲に欠けている。	学習内容は理解せず、グループの作業に積極的に参加しない。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	3	2年総合探究コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

<p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。 ・ 授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。 ・ 正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。 ・ 授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。 ・ 日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。 ・ 各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
<p>①知識及び技能</p> <p>各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。</p>	<p>種目による技能テスト(記録、フォーム等)</p> <p>種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)</p>
<p>②思考力, 判断力, 表現力等</p> <p>各教科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。</p>	<p>種目によるレポート作成</p> <p>(種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)学習カード(ロイロノート)</p>
<p>③学びに向かう力, 人間性等</p> <p>各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。</p>	<p>授業への積極的参加(集散・挨拶等)</p> <p>他者との協力</p> <p>授業準備・片付け</p>

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。
--

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ○健康・安全に留意し、他者を尊重しながら主体的に運動に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気づくことができる。 ○他者との交流を目的とし、グループ内で体づくり運動を考えることができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解し、実生活に取り入れながら実践することができる。 	参加状況③ グループ活動②③ 発表②
	選択種目① A「球技」 「ネット型」 (テニス)(卓球)(バレーボール) 「ゴール型」 (ハンドボール)(バスケットボール) 「ベースボール型」 (ソフトボール)の中から選択	<ul style="list-style-type: none"> ○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができている。 ○このレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を設定できる。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	ニュースポーツ① (ソフトバレー)(グラウンドゴルフ) (アルティメット)	<ul style="list-style-type: none"> ○ニュースポーツについて理解できている。 ○ルールや競技方法などについて自ら学ぶ姿勢で臨むことができる。 	参加状況・準備片付け③
2	体育理論 ①スポーツにおける技能と体力 ②スポーツにおける技術と戦術 ③技能の上達過程と練習 ④効果的な動きのメカニズム ⑤体力トレーニング ⑥運動やスポーツでの安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①技能と体力の関係について説明できる。技能や体力を高めるを高めるときに気をつけるべき点をあげることができる。 ②技能の形の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を説明できる。 ③技能がどのようなステップを経て上達するか説明できる。練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。 ④体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのか説明できる。よい動きを支える調整力について例をあげて説明できる。 ⑤目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる。 ⑥スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを説明できる。スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生原因と予防方法を説明できる。 	レポート提出①② 小テスト①
	選択種目② A「球技」 「ネット型」 (テニス)(卓球)(バレーボール) 「ゴール型」 (ハンドボール)(バスケットボール) 「ベースボール型」 (ソフトボール)の中から選択	<ul style="list-style-type: none"> * 選択種目②について、選択種目①で選択した以外の型の種目を選択しなければならない。 ○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができている。 ○このレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を設定できる。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	ニュースポーツ② (ソフトバレー)(グラウンドゴルフ) (アルティメット)	<ul style="list-style-type: none"> * ニュースポーツ②について、ニュースポーツ①で選択した以外の種目を選択しなければならない。 ○ニュースポーツについて理解できている。 ○ルールや競技方法などについて自ら学ぶ姿勢で臨むことができる。 	参加状況・準備片付け③
	選択種目③ B「陸上競技」 (ハードル走)(投擲)の中から選択 C「ダンス」 D「武道」 (剣道) BCDから3種目開講	BCD種目共通 ○個人種目の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○自分の課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができている。 ○このレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を設定できる。 B「陸上競技」 ○より遠くへ(高く)跳ぶために自らの能力に応じた技能を習得している。 ○自分の能力に応じた技能で、遠くへ投げることができる。 C「ダンス」 ○踊ることに興味を持ち、自ら進んで学習することができる。 ○ダイナミックにリズムカルに踊ることができる。 D「剣道」 ○木刀による剣道基本技稽古法を理解し、互いに教え合うことができる。	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
3	陸上競技 (長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ○記録を向上させる楽しみや喜びを体得している。 ○自らの能力に応じた目標や課題を設定できる。 ○設定された長距離をより速く走ることができる。 ○長距離走の特性や技術を理解している。 ○運動強度を心拍数によって導き出すことができる。 ○生涯にわたって運動を継続するために、自分自身の運動を処方する力を身につけることができる。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	選択種目④ 「球技」1種目 (バドミントン)(サッカー)	<ul style="list-style-type: none"> ○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術やや集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。 	参加状況・準備片付け③ 技能テスト①

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	保健	1	2年全コース	
教科書	現代高等保健体育(大修館)	副教材		

1. 学習の目標

- (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・各授業前(前日)までに授業範囲の教科書を読み、ポイントや疑問点について事前に調べておく。
- ・授業後、授業の内容についてノート等と教科書を比べたり、自分の考えをまとめたりする。
- ・調べ学習と発表は、発表分野の課題に関連する事象をより深く調べ、資料を準備する等してわかりやすく説明できるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識及び技能 各教科目において習得すべき知識・技能を身に付けているかを評価します。	課題提出・ノート(プリント等)提出 定期テスト
②思考力, 判断力, 表現力等 各教科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	課題発表 グループワーク等 定期テスト
③学びに向かう力, 人間性等 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶・発表・発言等) 課題提出・ノート(プリント等)提出

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	3単元 生涯を通じる健康 ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶	○ライフステージと健康の関連について説明できる。 ○各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。 ○思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ○思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。 ○性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ○性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。 ○妊娠・出産の過程における健康問題について説明できる。 ○妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。 ○家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ○人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	課題提出(①②③) 期末考査(①②)
2	4単元 健康を支える環境づくり ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動 ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加	○大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ○大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。 ○水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ○大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。 ○環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ○産業廃棄物の処理について説明できる。 ○ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ○上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。 ○食品の安全性と健康のかかわりについて説明できる。 ○食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。 ○食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ○食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。 ○保健行政の役割について例をあげる。 ○保健サービスの活用の例をあげることができる。 ○わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ○さまざまな医療機関の役割について説明できる。 ○医薬品の正しい使用法について説明できる。 ○医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。 ○国際機関・民間区間などの保健活動について例をあげて説明できる。 ○行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。 ○健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ○環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	発表(①②③) グループワーク(②③) 課題提出(①②③)
3	3単元 生涯を通じる健康 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活	○心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ○結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。 ○加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ○高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。 ○働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ○働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。 ○労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ○労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。 ○職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ○余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	課題提出(①②③) 期末考査(①②)

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	音楽Ⅱ	2	2年・総合探究コース（選択）	
教科書	音楽Ⅱ Tutti+（教育出版）	副教材	改訂 音楽通論（教育芸術社）	

1. 学習の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を伸ばすことを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

音楽Ⅰで学んだ基礎をもとに発展的な内容に取り組みます。課題と向き合い、あきらめずに練習を繰り返すこと。学んだ表現に工夫を加え、さらに独創的な表現を追求すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・実技試験やグループ発表の内容 ・鑑賞プリントの内容 ・創作作品の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・実技試験やグループ発表の内容 ・鑑賞プリントの内容 ・創作作品の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシートの内容 ・グループ発表及び個人での課題発表に取り組む姿勢 ・提出物の提出状況と内容

4. 担当者からのメッセージ

自信をもって発表ができるよう、練習時間を大切にしましょう。より魅力的な表現を目指して、何事にも積極的に、根気よく取り組みましょう。

年 間 学 習 計 画

学期	学習項目・内容の要点	学習のねらい（ポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	・オリエンテーション	○幅広い音楽の世界に興味・関心を持つ。		
	・声の世界	○基本的な発声法や表現を習得する。 ○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫する。 ○鑑賞を通して気づいたことを自分の演奏の工夫につなげる。	振り返りシート 実技試験 ワークシート	【 】 【 】
	・クラシックギター	○基本的な奏法を発展させ、演奏できる。	振り返りシート 実技試験	【 】
	・楽典 ・鑑賞	○楽譜について理解する（音価・音名・コード等）。 ○協奏曲の魅力に興味・関心を持つ。 ○独奏楽器と管弦楽の特徴をを理解し、よさや美しさを味わって聴く。	ワークシート 鑑賞プリント	【 】 【 】
2	・合唱の世界	○ハーモニーが生み出す響きに関心を持つ。 ○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫する。	振り返りシート	【 】
	・キーボード	○基本的な奏法から発展させる。	振り返りシート,実技試験	【 】
	・ミュージカルと歌	○曲種に合った発声法や表現ができる。	実技試験	【 】
	・鑑賞 ・器楽アンサンブル (ギター又はキーボード)	○ミュージカルに興味・関心を持つ。 ○今までの学習を生かして効果的に表現できる。 ○各自の役割を理解し、アンサンブルができる。	鑑賞プリント 振り返りシート 発表	【 】 【 】
3	・鑑賞	○人形浄瑠璃について知り、興味・関心を持つ。 ○日本の伝統音楽について理解し、よさや美しさを味わって聴く。	鑑賞プリント	【 】
	・創作	○基礎的な創作を通じて、独創的な表現を身につける。 ○意図を持って表現に取り組む。	創作作品の内容 発表	【 】
	・声の世界	○曲種に合った発声法や表現ができる。	振り返りシート	【 】

	A	B	C
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造について理解を深めている。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を十分に身につけ、歌唱や器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造についていくつか理解している。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造についての理解が不十分である。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽、創作で表すことが不十分である。
②思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながらどのように音楽をつくるか考えを深め、表現意図をもっている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながらどのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつことが不十分である。</p>
③主体的に学習に取り組む態度	<p>学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢が常にあり、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢が一定程度あり、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢がなく、主体的・協働的な取り組みが不十分である。</p>

鑑賞

	A	B	C
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深めている。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについていくつか理解している。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて一定程度理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについての理解が不十分である。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについての理解が不十分である。
②思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて深く考え、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことが不十分である。</p>
③主体的に学習に取り組む態度	<p>①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに強く関心を持ち、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに一定程度関心を持ち、主体的・協働的に取り組んでいる。</p>	<p>①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に取り組むことが不十分である。</p>

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	美術Ⅱ	2	2年・総合探究コース(選択)	
教科書	美術2 光村図書	副教材		

1. 学習の目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、考えたことを表現する努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。また、美術系への進学を希望している人は、できるだけ早めに相談に来てください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容 ・作品についての発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の提出状況と内容 ・課題に取り組む姿勢

4. 担当者からのメッセージ

様々な美術に関する展覧会などに足を運んで、表現にもいろいろあることを知ったり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどうのような表現をしたいと考えるなど、美術やデザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(美術Ⅱ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞	□モノトーン表現の表現手法を理解し、その色の美しさやよさを理解し、作品の考察をしている。	ワークシート	【 】
	・版画(凹版)	□フォトモンタージュ、スケッチ、資料をもとに版下絵を作成し、不思議な世界を創造している。 □凹版の技法や表現の特徴を理解し制作している。 □材料用具の使用の仕方を理解している。	課題作品(アイデアスケッチ含) 表現	【 】
	・鑑賞会	□他の生徒の作品を鑑賞し、その表現の良さや技法の工夫等を感じ取り、作品批評している。	ワークシート	【 】
2	・デザイン(キャラクターデザイン・創作絵本)	□絵本の主人公になる魅力的なキャラクターを創造している。 □オリジナルまたは既成のストーリーを用いて、読者の年齢を想定したものにしている。 □表現材料や方法を自ら選択し、表現方法を工夫して絵本を制作している。	課題作品(アイデアスケッチ含) 課題作品 表現	【 】 【 】
	・映像制作	□創作した絵本の視覚的要素と音響を組み合わせ、映像作品として効果的に表現している。	課題作品 表現	【 】
	・鑑賞会	□他の生徒の作品を鑑賞し、その表現の良さや技法の工夫等を感じ取り、作品批評している。	ワークシート	【 】
3	・空間表現・ミラーボックス	□空間の表現形式について考え、創造的な表現の構想を練っている。 □表現方法を創意工夫し、個性豊かに表現している。	課題作品 表現	【 】
	・鑑賞・1年間のまとめ	□1年間に思い返し、自分の感覚に合った表現方法や作家作品について考えをまとめ、発表している。	ワークシート(発表)	【 】

芸術(美術Ⅱ)ルーブリック			
	A	B	C
①知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解することが難しい。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫することが難しい。
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を理解している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を理解することが難しい。
③主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に粘り強く取り組もうとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組むことが難しい。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸Ⅱ	2	2年・総合探究コース（選択）	
教科書	『工芸Ⅱ』（日本文教出版）	副教材	『美術資料』（秀学社）	

1. 学習の目標

自己の生活を振り返り、自らの思いや夢などから創造的で心豊かな発想をすることができる。社会的な視点から生活環境を観察して、課題意識を持って構想し、作品表現できる。制作の意図に基づいて、表現方法や素材・技術がどのように活かされたかなどについて考えられる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

工芸Ⅰでの学習を基礎にして、自らが課題を見つけ解決する能力を高めるには、既成の価値観や概念によらない多様な視点から自身の生活を振り返ることが大切です。また思い通りの構想を実現するためには、材料に関する理解と経験を深め、何事にも根気強く取り組み、諦めない気持ちを持つことが必要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 課題の制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり手順や技法などを吟味したりするなどし、創意工夫して制作しているかどうかを評価します。	材料の特長を理解して、丁寧な成形・加工がなされているか。 作品表現等 目的に合った用具について、適切な使用が行えているか。 制作方法等
②思考・判断・表現 感性や想像力を働かせて、社会的な視点に立って生活環境などを考え、使用する人や場などに求められる機能と美しさを考えて制作の構想を練っているかどうかを評価します。 作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、制作過程における工夫や素材の活かし方、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めているかを評価します。	身近な生活環境から、改善の課題を見つけて制作するものを考え、自分なりの発想が制作に結びつけられているか。用と美について考えることができているか。 アイデアスケッチ・実物大の下図・平面表現等 作品についての丁寧な鑑賞を行い、作者への関心を深めて、自分の価値観・考えを大切に文章がまとめられているか。 鑑賞ワークシート、レポートの内容等
③主体的に学習に取り組む態度 題材の内容に関心を持ち、主体的に発想して制作の構想を練ったり、制作方法を理解し、すすんで取り組んでいるか。積極的に理解しているかどうかを評価します。	つくることを通して得られる知識と技能を高める意欲があるか。 受講・制作の態度 課題作品・レポート・アイデアスケッチ等の提出 授業への出席状況等

4. 担当者からのメッセージ

工芸Ⅱは、発想・構想の面からも表現の技能の面からも、より発展した内容になっています。頑張った分だけ自分に身についた能力を実感できると思います。やらされている感でつまらない時間と労力を費やすのではなく、考えたことを作品として形にしたいという積極的な態度で臨んでください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動	自己評価
1	○オリエンテーション 「生活と工芸」 ・衣 ・食 ・住	□普段の生活を見つめ直し、生活や社会との関係から工芸の役割について考える。 ・衣服など身に付けるものの機能や働き ・食に関わる様々なものの機能や働き ・住居や生活環境などについての考察	・アイデアスケッチまたはワークシート等 国際 環境	[]
	○住宅の設計と模型の制作 ・「住」 ・設計図の作成	□設計図や模型の制作を通して空間の認識力を高める。 □自分の理想とするような住宅について楽しんで構想をする。 □住空間を考えるにあたってテーマを設け、最低限必要な所要室以外に付加的な何かを盛り込む。 □間取図・屋根形状図・立面図によって簡潔に表現する。 □基本的な建築記号を用いて美しい設計図を描くことができる。	・家の間取りを考える ・構想図の提出 間取図 屋根形状図 立面図 (外観透視図) 等 ・設計図の提出 表現	[] [] []
	・模型制作 (・プレゼンテーション)	□設計した住宅の模型を制作する。 □設計図に合わせてスチレンボードを切る・接着するなどの作業が丁寧にできる。 □設定したテーマや個性的な発想に関して表現の工夫ができる。 □制作意図を伝えるための原稿を作成し、発表する。	・パーツの切断 ・組み立て ・接着 表現 ・住宅模型の提出 ・(プレゼン原稿) ・感想文等	[] []
2	○カムのおもちゃ ・鑑賞会	□生活に潤いや喜びを与え、子どもたちの知的な発育も促す「遊び」について見識を深め、玩具をつくる。 □カムの機構を理解して、意図に応じた動きを検討したり、制作の手順や技法などを吟味することができる。 □粘土の成形や木箱の着色など玩具としての装飾効果を考えて、工夫する。 □カムの組み立てとパーツの接着を行って作品を完成させる。 □完成した作品を10秒程度の動画として撮影して提出する。 □制作者の意図や工夫、作品のよさ、おもしろさや美しさを感じ取る。	・アイデアスケッチ提出 ・カムの制作 ・木箱の加工 等 ・粘土成形 ・パーツの着色 等 ・作品の提出 表現 ・動画撮影 ・鑑賞ワークシート	[] [] []
3	○ステンシル版画技法で制作するエコバッグ (型紙による染色) ・伊勢型を学ぶ ・型紙の作成 ・染色(型染め) ・鑑賞会	□さまざまな形によるデザインを組み合わせ美しい模様を持った型紙を制作する。 □伊勢型を通して日本の伝統文化や外国の文化を知り、理解を深める。 □形の配置を効果的に組み合わせプリント出来ている。 □色彩・ぼかし等に配慮したステンシル技法の染色が丁寧にできる。 □用途と美しさを追求した独自のデザインを実現している。 □個性を認め合い、それぞれの作品のよさを味わうことができる。	・アイデアスケッチ①形の発想 ・アイデアスケッチ②組み合わせの構想 ・型紙の提出 国際 表現 ・エコバッグ作品の提出 ・鑑賞会ワークシート等	[] [] [] []

芸術（工芸Ⅱ）ルーブリック

	A	B	C	D
①知識及び技能	材料や工具の使用についての知識や加工の技術を習得し、表現しようとする作品について高いレベルで実現できる。	材料や工具使用についての知識や技術を習得し、作品表現できる。	材料や工具使用についての知識や技術の習得が少し不十分であり、作品の完成度も不足している。	材料や工具使用についての知識や技術の習得ができていない。課題に応じた作品が表現できない。

	A	B	C	D
②思考・判断・表現	課題の内容を深く理解し、素材に応じて制作方法を工夫しながら独自の表現ができる。	課題の内容を理解し、作品として表現可能な発想・構想ができる。	課題の内容を理解しているが、表現可能な発想力や構想力に不十分なところがある。	課題の内容を理解できておらず、作品として表現可能な発想・構想ができない。
（鑑賞）	作品の良いと思われる点について多角的に鑑賞でき、豊富な言葉を用いて独自の考えがまとめられる。	作品の良いと思われる点について鑑賞でき、考えがまとめられる。	作品の鑑賞に際して感じたことや考えをまとめ表現するのに不十分な点がある。	作品の良さを味わうことができず、感じたことや自分なりの考えも表現できない。

	A	B	C	D
③主体的に学習に取り組む態度	課題について強く関心を持ち、主体的に計画的に課題を進めていくことができる。提出物は工夫して丁寧に仕上げ、締切日に提出できる。	課題に関心を持ち、計画通りに進めていくことができる。提出物は締切日に完成提出できる。	課題に向かう意欲が少し不足している。提出物は締切日を過ぎて提出したり、完成度が低く丁寧さに欠ける。	課題に取り組もうとする意欲が感じられず、締切日を過ぎても作品が提出されない。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸Ⅱ	2	2年総合探究コース(選択)	
教科書	工芸Ⅱ(日本文教出版)	副教材	美術資料(秀学社)	

1. 学習の目標

工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、使う材料の性質や表現技法について考え、使う人の気持ちに寄り添う表現をする努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容 ・作品についての発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の提出状況と内容 ・課題に取り組む姿勢

4. 担当者からのメッセージ

様々な工芸に関する展覧会や展示会などに足を運んだり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどのような素材で表現をし、使う人の気持ちや利便性を考えるかなど、デザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(工芸Ⅱ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞 ・住宅模型 ・鑑賞会	□生活と住居について、さまざまな事例を調べ、理解を深める。	ワークシート 環境	【 】
		□住居空間について理解し、個性を生かして個性的に表している。	ワークシート(アイデア スケッチ含) 表現	【 】
		□他の生徒の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。	課題作品	【 】
		□自分の作品の意図や工夫、苦心点などをレポートにまとめ、発表している。	ワークシート	【 】
2	・カムのおもちゃ ・鑑賞会	□遊び道具の仕組みを観察し、個性豊かな発想や用途と美しさの調和について考える。	ワークシート(アイデア スケッチ含)	【 】
		□玩具の色彩や素材などの性質や、それらが感情にもたらす効果、創造的な特徴などをもとに全体のイメージを捉える。	課題作品 表現	【 】
		□各自の作品を鑑賞しあい、その良さや工夫をレポートにまとめている。	ワークシート	【 】
		□自分の作品の意図や工夫、苦心点などを発表している。		
3	・ステンシル技法のエコバック ・鑑賞・1年間のまとめ	□伊勢型紙(ステンシル)の伝統、文化について学び、普段使用している染織製品について考察している。	ワークシート(アイデア スケッチ含)	【 】
		□ステンシル技法を使った制作を通して、その性質や技術を学び、表現方法を創意工夫して制作している。	課題作品 表現	【 】
		□工芸Ⅱの学習を振り返って反省とまとめを行い、これからの工芸とのかかわりについて考察している。	ワークシート	【 】

芸術(工芸)ルーブリック			
	A	B	C
①知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解することが難しい。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫することが難しい。
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を理解している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を理解することが難しい。
③主体的に学習に取り組む態度	主体的に工芸の幅広い創造活動に粘り強く取り組もうとしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組むことが難しい。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語コミュニケーションⅡ	4	2年 総合探究クラス	
教科書	LANDMARK Fit English CommunicationⅡ	副教材	Listening Laboratory Basic β	

1. 学習の目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと[やり取り] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと[発表] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

<p>「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。</p> <p>①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。</p> <p>②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。</p> <p>③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。</p>

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
<p>①知識・技能</p> <p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</p> <p>・聞く、読む、話す、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。</p>	<p>読む・聞く能力を身につけているか(小テストや定期考査)</p> <p>基本的な語彙や文法事項を身につけているか(小テストや定期考査)</p>
<p>②思考・判断・表現</p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話者や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり、伝え合ったりしている。</p>	<p>話す・書く能力を身につけているか(プレゼンやスピーキングテスト、ライティング課題)</p> <p>相手の話と同調し、尊重しながらも自分自身の意見を伝えられるか(ディベート課題等)</p>
<p>③主体的に学習に取り組む態度</p> <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<p>自身の英語活動について主体的に学び、記録に残すことができているか(振り返り等)</p> <p>ワークシート等の提出状況</p>

4. 担当者からのメッセージ

<p>1年生で身につけた基礎を定着させ、さらに高度な文章を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりする力を伸ばしていきましょう。また、少しずつ進路を見据え、主体的に学習に励みましょう。研修旅行に向けて、継続的に国際交流を行っていきます。精一杯取り組み、語学力を磨くだけでなく、異文化の理解に努めてください。</p>
--

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第 2 学 年	○文単位で話すことができる ○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる	○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のもとまった文を書くことができる ○論理表現IIで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる	○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	○英語コミュニケーションIIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 ライティングテスト

		1	2
		文法事項（論理・表現IIと共通）	Lesson 1 ～ Lesson 8
知識 ・ 技能	Reading	ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Listening	ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Interaction	ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。
	Presentation	ターゲットとする文法を用いて話す技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える
	Writing	ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える
思考 ・ 判断 ・ 表現	Reading	文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を的確に捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Listening	話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を的確に捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して詳しく伝え合ったりしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して複数段落を用いて詳しく書いて伝えている。
主体的 に学 習に 取 り 組 む 態 度	Reading	文化理解を深め、書き手に配慮しながら主体的・自律的に読んでいる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	Listening	文化理解を深め、話し手に配慮しながら主体的・自律的に聞いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
自己評価			

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	論理表現Ⅱ	2	2年総合探究コース	
教科書	My Way Logic and Expression Ⅱ	副教材	総合英語one、スタディサプリ等	

1. 学習の目標

1年次より継続して、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。
 ①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。
 ②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。
 ③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	単元で学習した語彙や表現、文法事項などについて理解しているか 学習した「知識」を基に、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝える技能を身に付けているか
②思考・判断・表現 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。	さまざまな日常的话题や社会的な話題のテーマについて、情報や考え、気持ちについて話し続けたり、論理的に話して文単位で伝えることができるか、また論理的に50語程度の英文で書くことができるか
③主体的に学習に取り組む態度 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。	聞いたり読んだりしたこと基に、聞き手に配慮しながら自分の考えや気持ちを理由とともに伝え合おうとしているか。また、状況を把握し、粘り強く学習に取り組もうとしているか さまざまな日常的话题や社会的な話題のテーマについて、情報や考えなどを理由や根拠とともに話そう、書こうとしているか

4. 担当者からのメッセージ

北稜高校2年生での論理表現Ⅱの目標は裏面のCAN-Do listにある①話すこと(やりとり)②話すこと(発表)③書くことの3つです。1年生で学習したことを基に、2年生では更に知識技能を身につけ、表現する力を養っていきましょう。また、研修旅行に向けての学校交流をするために、上記①②③の目標の到達は非常に大切です。主体的に学び、異文化の人たちとも自ら進んで交流する資質や、自身の考えを相手に伝えられる実力を養っていきましょう。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第3学年	<p>○対話の展開を意識して、やり取りすることができる</p> <p>○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる</p>	<p>○適切な表現を用いて、即興で自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現IIで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる</p>	<p>○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p> <p>○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる</p>	<p>○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第2学年	<p>○文単位で話すことができる</p> <p>○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる</p>	<p>○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現IIで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる</p>	<p>○ゆっくりであれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p> <p>○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる</p>	<p>○英語コミュニケーションIIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第1学年	<p>○フレーズ単位で話すことができる</p> <p>○英語らしい発音をすることができる</p>	<p>○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現Iで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる</p> <p>○文構造を意識しながら英文を書くことができる</p>	<p>○日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる</p> <p>○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p>	<p>○英語コミュニケーションIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる</p> <p>○文構造を意識しながら英文を読むことができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

観点別目標

知識・技能	話すこと（やり取り）	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身につけている。</p>
	話すこと（発表）	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて話す技能を身につけている。</p>
	書くこと	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身につけている。</p>
思考・判断・表現	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
家庭科	家庭基礎	2	2年全コース	
教科書	東京書籍 家庭基礎自立・共生・創造	副教材		

1. 学習の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、食生活、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、生活の向上を図る力を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

家庭基礎の学習は、日常の生活や人との関わりの中にあります。「授業を受ける中で、自分自身の生活や人との関わりと照らし合わせて思考し、想像する。」「専門用語の意味もできるだけそこで理解する。」「興味があるかどうかは別として、授業の内容は身近なことが大半です。まず、授業中にしっかり思考し、想像してください。そうすれば、考査前に復習するとすんなり頭に入ってきます。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 ・提出物(実験・実習レポート等) ・授業のまとめおよび振り返りプリント
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・課題学習(個人・グループ) ・授業のまとめ及び振り返りプリント

4. 担当者からのメッセージ

家庭基礎の学習内容は、生きていく中で身近なことばかりです。衣食住や人間関係など、自分を取り巻く環境に興味に興味を持ってください。

令和8年度北稜シラバス

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	<p>第1章 食生活を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養と食品のかかわり ・食事の計画と調理 ・食品の選び方と安全 	<p>□栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品について基礎的な知識を習得している。</p> <p>□栄養・食品の知識を基に、食事摂取基準、食品群別摂取量などを用いて、バランスのとれた食事計画ができる。</p> <p>□食品衛生(主に食中毒)について学び、消費者として知っておくべき知識を身につけている。</p>	<p>振り返り・まとめ提出</p> <p>課題提出</p> <p>実験・実習</p> <p>期末試験</p>	<p>[]</p> <p>[]</p> <p>[]</p>
2	<p>第2章 子どもとかかわる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを知る ・発達のすばらしさ ・子どもの生活 ・親になることを考えよう 	<p>□保育を学ぶ意義について理解している。</p> <p>□子どもの心身の発達と特徴について理解している。</p> <p>□子どもの食や遊びについて理解しそれらの知識に基づいた子どものおやつ作りなどができる</p> <p>□子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関わりが重要であることが理解できる。</p>	<p>課題提出</p> <p>実習</p> <p>振り返り・まとめ提出</p>	<p>[]</p>
	<p>第3章 自分らしい生き方と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に生きる家族 ・家族に関する法律 <p>第4章 高齢者と関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を知る ・豊かな高齢期を迎えるしくみ 	<p>□現代の家族にかかわる課題について、社会的な事象を考えながら理解できる。</p> <p>□憲法・民法のとりわけ家族に関する条文について理解している。また、民法改正の動きについても理解できる。</p> <p>□高齢者の心身の特徴や生活について理解し、積極的に高齢者とその生活を知ろうとする。</p> <p>□介護保険制度のしくみやサービスの内容と課題について理解できる</p>	<p>課題提出</p> <p>DVD学習</p> <p>期末考査</p>	<p>[]</p> <p>[]</p> <p>[]</p> <p>・定期考査</p> <p>[]</p>
3	<p>第4章 家庭生活と防災・減災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害への備え <p>第5章 消費行動を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費行動と意思決定 ・社会の変化と消費生活 	<p>□災害に備えて、様々な角度から家庭生活上の安全対策を考えることが出来る。</p> <p>□自分たちが消費者であることを理解し、消費行動についてはその都度意思決定が行われて入ることが理解できる。</p> <p>□契約、多様な販売方法や支払い方法、問題商法について理解できる。被害に遭った場合の解決方法についても理解する。</p> <p>□資源・環境を考えた献立を調理することが出来る</p>	<p>実習</p> <p>課題提出</p> <p>実習 環境</p> <p>学年末考査</p>	<p>[]</p> <p>[]</p> <p>[]</p> <p>[]</p>

令和8年度北稜CANVASシラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜CANVAS II	1	2年・総合探究コース	
教科書	授業時にプリント配布	副教材		

1. 学習の目標

2年生の探究では、自分自身の「マイテーマ」を出発点とし、問いを深め続ける探究を行う。本講座では、「自分の内面から生まれた問いを言語化する力」「問いを多角的に捉え、深め続ける力」「他者との対話や社会との接点を通して思考を更新する力」「自分なりの意味や立場を見出し、表現する力」を育てることを目標とする。必ずしも「正解」や「解決策」を出すことを目的とはしない。探究の過程を通して、自分の問いに誠実に向き合い続ける姿勢そのものを重視する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

①身の回りや社会全体にアンテナを張り、「はてな?」「なぜそうなのか?→「問い立て」)をたくさん発見することが大切です。②発見した「はてな?」を解決するために、先行研究をしっかりと調べ「仮説」を立てます。③「仮説」を実証するために地域に出向いて現地調査を行ったり、大学教員に意見を聞いたりするなど、探究を通して「つながり」を広げながら考えを深めていきます。④最終報告を取りまとめ、他者に「伝える・伝わる」ことを意識して発表します。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章で評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①自分が興味のある「問い」を発見・設定する力。 ②適切な方法で文献資料等を検索・活用する力。 ③調査結果等を他者にわかりやすく伝える力。 ④自分が興味を持った「問い」を極め、社会課題を解決する力
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①「やりたいこと」と「できること」を判断し実行する力。 ②適切な仮説をたてる力。 ③適切な調査方法を見いだす力。 ④調査結果を適切な方法でまとめて表現する力。 ⑤調査結果を地域に提案・還元する力。
③主体的に学習に取り組む態度 積極的に自らや社会の問題を解決しようとし、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度。 ②関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする態度。 ③他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする態度。

4. 担当者からのメッセージ

探究は「受け身」では成り立ちません。あなたにしかない「なんでだろう! ?」「面白い!」を探し、究めてください。常に何かを「与えてもらう」立場から、自ら気づき、取り組み、社会の中の誰かに何かを「与えることのできる」そんな存在になってください。

令和8年度北稜CANVASシラバス

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・問い立てをする ・先行研究を調べる ・仮説をたてる ・調査方法を考える ・調査計画をたてる <p>その他に、参考文献等の提示方法等も学ぶ</p> <p>* 講座内で小さな発表会を1～2回ほど行う</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いをたてることができる ・適切な方法で文献資料等を検索・活用できる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やりたいこと」と「できること」を判断し実行できる ・適切な仮説をたてることができる ・適切な調査方法を見いだせる ・調べたことを適切な方法でまとめて表現できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする ・他者と協力し主体的に課題に取り組もうとする 	<div style="text-align: center;">環境</div> <div style="text-align: center;">国際</div> <div style="text-align: center;">表現</div>
夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> ・調査をする ・調査の進展具合を報告する（オンライン登校日） 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を吟味し内容を発表できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に調査に向かうことができる 	<div style="text-align: center;">表現</div> <p>オンラインレポート</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理する ・調査結果を適切な方法で表現する ・調査結果を共有し内容を鍛える <p>* 夏休みの調査報告会</p> <p>* 中間発表会</p> <p>外部発表エントリー（希望者）</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる ・調査結果等を他者にわかりやすく伝えることができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を適切な方法でまとめて表現できる ・調査結果を地域に提案・還元できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする 	<div style="text-align: center;">表現</div> <p>カウンセリング演習発表</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・実践報告会に向けて準備する ・実践報告会（北稜CANVAS DAY・AWARD） ・まとめ <p>* 優秀発表の選考</p> <p>* 外部発表（探究エキスポ・フロンティア校発表等）</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる ・調査結果等を他者にわかりやすく伝えることができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を適切な方法でまとめて表現できる ・調査結果を地域に提案・還元できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度 ・関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする ・他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする 	<div style="text-align: center;">表現</div> <div style="text-align: center;">国際</div> <p>発表レポート</p>

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	論理国語	1	2年生 英語人文・環境理数コース	
教科書	『精選 論理国語』 (東京書籍)	副教材	『トータルサポート新国語便覧 改訂版』(大修館書店) 『新 常用漢字パーフェクトクリア 三訂版』(尚文出版)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(知識および技能)
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語活動を行うために必要な語彙や文法事項などを理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれたものを正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法の知識/情報の扱い方/読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 論理的に/豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力/読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

たった1単位しかありませんが、論理的に考え、読んでいくための「コツ」を1年かけて身につける、濃い内容のものにしていきたいと思えます。読む力も書く力も、一朝一夕には身につけません。コツコツ頑張りましょう。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	文学国語	1	2年生 英語人文・環境理数コース	高橋
教科書	『文学国語』 (東京書籍)	副教材	『トータルサポート新国語便覧 改訂版』(大修館書店)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(知識および技能)
- ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語文化を理解するために必要な語彙や文法事項を理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれた内容を正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法、文学史の知識/読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 共感的に/豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	書く能力/読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

たった1単位しかありませんが、皆さんの一生に残る文学との出会いがあると期待しています。ぜひ、想像の翼を大きく広げて下さい。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	論理国語 読1「発見への誘い」	・読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	表現	教科書 『いつもそばには本があった』	
		・具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。 ・書かれている内容を理解し、論理的に考えることの意義を知る。	表現	教科書 『ミロのヴィーナス』 「論理の力を鍛えよう」	
				中間考査	
	文学国語 読1「小説1」	・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	表現 国際	教科書 『山月記』 「文学への扉 変身ということ」	
	論理国語 読3「言語と認識」	・具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。	表現 国際	教科書 『相手依存の自己規定』	
				期末考査	
2	論理国語 読4「人間を見つめる」	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	表現	教科書 『メディアの変容』	
	文学国語 読2「小説3」	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。	表現	教科書 『ころ』 「襖という道具」	
	文学国語 読3 言語活動「書評を書く」	・選んだ本の内容を解釈して、作品の紹介と内容の評価を区別し、書評を書く。	表現	教科書 「書評を書く」	
	論理国語 書1「仮説を立てて検証する」 「図表の読み取り方」	・仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。	表現	教科書 「仮説を立てて検証する」 「図表の読み取り方」	
				期末考査	
3	文学国語 読4「詩歌」	・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。	表現	教科書 『永訣の朝』	
	文学国語 書1 言語活動 「共同で詩を創作する」	・共同で詩を創作して意見を交換し、詩に対する自らの価値観を捉え直す。	表現	教科書 「共同で詩を創作する」	
	論理国語 読5「社会を捉え直す」	・例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。 ・書かれている内容を理解し、『「である」ことと「する」こと』を読み深める。	表現	教科書 『「である」ことと「する」こと』 「唯名論と実在論」	
				学年末考査	

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典探究	3	2年生 英語人文・環境理数コース	
教科書	『精選 古典探究』 (大修館書店)	副教材	『トータルサポート新国語便覧 改訂版』(大修館書店) 『四訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』(いいずな書店) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版)	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識および技能)
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・1年次に学習した基本的な知識や読解力を定着、伸長させるために、古語の意味と読み、文法知識を反復練習する。
- ・古典単語の小テストを積み重ねることで、語句の知識を身につける。
- ・グループワークに積極的に参加することで自分以外の考えに触れ、深く作品を理解する。
- ・古文漢文とともに、登場人物や場面を意識しながら本文を丁寧に読み、授業ノートで内容を復習してから考査に臨めるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりごとに(定期考査までを学習のひとまとめりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 古典を読むために必要な語句や文法事項などを理解し、知識を身につけているか、また書かれたものを正確に読解できているかを評価します。	・定期考査 ・小テスト
②思考・判断・表現 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか、書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈しているか、作品の内容と自分の知見を結び付けて考えを広げたり深めたりしているかを評価します。	・定期考査 ・パフォーマンス評価(発表・発言・記述等) ・提出された課題等
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強く取り組んでいるか、また、その取り組みの中で自らの学習を振り返り、調整できているかを評価します。	・自己評価 ・定期考査 ・提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてください。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

令和8年度北校シラバス

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	説話	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を復習する。	表現	教科書 『宇治拾遺物語』	
	故事・逸話	・故事成語の成り立ちや展開、現代日本での役割を理解し、発表する。 ・1年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。	表現 国際	教科書 『知音』 『画竜点睛』	
	中間審査				
	漢詩	・押韻や対句に注意して、近体詩の形式や表現について理解する。 ・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、深く味わって詩的世界を理解する。	表現	教科書 「竹里館」 「登岳陽楼」	
	随筆(一)	・仏教的無常観にもとづく、作者の思想を理解する。 ・対になる表現や比喩などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	表現	教科書 『方丈記』	
期末審査					
2	随筆(一)	・中世的無常観にもとづく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。	表現	教科書 『徒然草』 『玉勝間』	
	思想	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。	表現	教科書 『聞斯行諸』	
	物語(一)	・物語の展開を理解し、和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。 ・文章や和歌を通して、登場人物の行動と心情を読み取り発表する。	表現	教科書 『伊勢物語』	
	中間審査				
	史伝	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 ・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係をふまえながら読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。	表現 国際	教科書 『史記』 「鴻門の会(一)」	
物語(二)	・登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。 ・敬語の意味と用法について整理し理解する。	表現	教科書 『源氏物語』		
随筆(二)	・敬語の意味と用法について整理し、敬意の方向や現代語訳を正確に捉える。	表現	教科書 『枕草子』		
期末審査					
3	日記	・作者の立場を理解し、その心情を読み取り、意見として発表・交換する。	表現	教科書 『土佐日記』	
	史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。 句法についてペアやグループワークで確認する。	表現	教科書 『史記』 「鴻門の会(二)」	
	物語(二)	・物語中の人物描写などを味わい、作品をとりまく時代の背景、文化的環境についての理解を深める。	表現	教科書 『源氏物語』	
	中間審査				
	史伝	・内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことについて、調べて発表したり議論したりする。	表現	教科書 『史記』 「項王の最期」	
物語(三)	・作品に表れた人間、社会、自然に対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・敬語表現を文法的に正しく理解し識別する。	表現	教科書 『大鏡』		
思想	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。 ・中国古代思想史について興味をもち、現代に与えた影響について理解する。	表現 国際	教科書 「小国寡民」		
学年末審査					

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	歴史総合	4	2年英語人文コース	
教科書	わたしたちの歴史(山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

受け身にならないためにも事前に教科書を一通り読んで、問題意識を持って授業に臨んでください。問題意識をもつためにも疑問に思ったことは恐れずに質問するか、自らの力で調べる努力をしてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・近現代の歴史の変化に関わる事柄について、広い視野から捉え、近現代の歴史が理解できる。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 ※定期テストを中心に評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	学習した内容や調べた内容を多面的・多角的に考察できる。またその考察したことを説明したり、それらをもとに議論したりできる。 ※定期テスト、授業ノート提出、グループ学習を中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	現代と過去の関連性を認識し、現代の世界における諸課題への関心を深めている。 ・諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができる。 ※授業ノート・課題プリント提出および発表・授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

現代日本や世界の姿を、歴史の到達点として学びます。日本史、世界史と縦軸・横軸に移動しながら考察する科目です。世界史・日本史の枠にとらわれることなく、近代化、グローバル化、そして大衆化の三点で新しい歴史像を創造していきましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習活動	
1	<p>歴史の扉 学校の歴史 学校給食の歴史</p>	<p>□歴史のなかで学校の意義を理解することによって、「いま」の状況や課題を理解できる。 □日本の学校の特徴を国際比較のなかで整理できる。 □「学校給食の歴史」を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解できている。</p> <p style="text-align: right;">国際 表現</p>	<p>授業ノート提出 課題プリント提出 グループ学習 など 中間考査 期末考査</p>
	<p>第一部 近代化と私たち ・結びつく世界 ・18世紀の世界と東アジア ・産業革命 ・アヘン戦争と日本 ・日本の開国 ・日本開国期の国際情勢 ・開国後の日本社会 ・市民革命と国民統合 ・明治維新 ・富国強兵と文明開化 ・日本の明治初期の外交 ・大日本帝国憲法の制定 ・日本の産業革命と日清戦争 ・帝国主義 ・日露戦争と韓国併合</p>	<p>□18世紀の交通や交易の姿を理解するとともに、アジアや日本における生産と流通を大局的に理解できる。 □産業革命の基本的な構造を理解するとともに、それが世界に与えた影響について理解し、説明ができる。 □欧米諸国のアジア進出を理解するとともにアヘン戦争が日本に与えた影響(鎖国から開国に至るまで)を理解できる。 □市民革命と明治維新を、資料をもとに比較、考察できる。国際 表現 環境 □日本の近代化、特に文明開化について資料を収集して、その特徴を整理できる。 □東アジア各国と近代日本との関係を外交資料をもとに、考察・理解できる。 □大日本帝国憲法の内容を西欧諸国の憲法と比較し、さらに現憲法から照射することによって時代の空気をイメージできる。 □日清戦争前後の日本国内の産業発達を世界史との関わりで把握、理解できる。 □帝国主義の基本的な特徴を理解するとともに、地図上の作業で整理することによってイメージ化ができる。 □日露戦争前後の国際情勢および顛末を整理・理解できる。日本がはじめて経験した総力戦のあり方を太平洋戦争と比較・検討することができる。 □日朝関係史を古代から概観で把握するとともに、日韓併合後の植民地政策を整理・理解できる。</p>	
2	<p>第二部 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・大衆運動の芽ばえ ・第一次世界大戦 ・第一次世界大戦と日本 ・ロシア革命とその影響 ・社会運動の広がり ・国際協調 ・アジアの民族運動 ・大衆社会の到来 ・世界恐慌 ・独裁勢力の台頭 ・日本のアジア進出 ・第二次世界大戦 ・第二次世界大戦と日本 ・第二次世界大戦の終結 ・戦後国際秩序 ・冷戦の始まり ・日本の戦後改革と日本国憲法 ・日本の独立</p> <p>第三部 グローバル化と私たち ・第三世界の登場 ・冷戦の固定化と「雪どけ」 ・冷戦の展開 ・55年体制と安保闘争 ・高度経済成長の光と影</p>	<p>□産業革命以降に芽生える大衆運動を普通選挙獲得運動、労働運動や女性解放運動など多角的な視野で把握することができる。 □第一次大戦に至る世界情勢を地図や勢力均衡図などの資料を通じて理解できる。 □第一次大戦に日本が参加した理由(中国での勢力伸長、経済危機の克服など)を資料を通じて理解するとともに、それが戦後の国際社会にどのような影響を与えたのか理解できる。 □ロシア革命のもつ意味、またそれが国際社会に与えた影響を理解するとともに、1920年代の日本の市民運動や社会運動の伏流水となっていく点を例をあげて説明できる。 □戦後の国際連盟誕生・軍縮の流れに日本がなぜ、どのように協調していったのか、国際社会との関係で理解できる。 □大戦景気により生まれる大衆消費社会が戦後恐慌以降の日本の景気低迷のなかでどのように展開していくのか、戦後のアメリカの経済繁栄とその破綻を視野に入れて説明・理解できる。 □戦後の共和国ドイツがナチス政権をなぜ受け入れていったのか、当時の資料をもとに考察・理解できる。 □日本の協調外交が破綻し、日中十五年戦争に突入していく流れを把握し理解できる。 □第二次大戦に至る各国の意図を把握するとともに、独ソ戦に至るまでの流れを理解できる。 □太平洋戦争の流れ、及び戦時下の統制経済や国民生活を当時の資料をもとに分析、理解できる。 □大戦の終結に至る流れの中で「沖繩戦」「原爆投下」などの主題を分析し、考えを深めることができる。 □戦後の日本の民主化政策について多角的に理解できる。 □冷戦構造を世界地図をもとに把握するとともに、冷戦が日本の民主化に与えた影響を考察できる。 □日本国憲法の成立過程とその普遍的な性格を理解するとともに、冷戦のなかで憲法解釈がどのように変化していったのかを説明できる。 □冷戦のなかでの日本の独立とその性格(本土のみの独立)を把握するとともに、日本が国際社会でどのような地位を占めていくか展望できる。 □AALA諸国の独立により国際社会が三極化していく動きを把握する。 □キューバ危機から「雪どけ」の流れを概観し、その後の冷戦の展開を核軍縮の動きとともに理解できる。 □資料をもとに安保闘争の論点を整理することによって、冷戦のなかで成立した日米安保条約の問題点を浮き彫りにして整理できる。 □具体例をあげて高度経済成長の功罪を整理して説明できる。特に四大公害裁判については資料を収集して発表、説明ができる。</p> <p style="text-align: right;">国際 表現 環境</p>	<p>授業ノート提出 課題プリント提出 グループ学習 など 中間考査 期末考査</p>
3	<p>・ベトナム戦争とアメリカ ・経済構造の変化 ・日本の経済大国化 ・アジアの経済成長 ・社会主義の停滞と新自由主義 ・冷戦の終結 ・冷戦後の地域紛争 ・地域統合 ・現代世界の諸課題 ・日本の諸課題</p>	<p>□ベトナム戦争に介入したアメリカや米軍基地のある日本の動き・市民運動を新聞資料などをもとに分析して整理できる。 □70年代以降アメリカの国際社会からの後退と世界の五極化現象～冷戦の終結までを地図資料などをもとに分析、整理できる。 □80年代の日本の経済大国化からバブル崩壊までを具体的な例をあげながら説明、理解できる。 □冷戦終結後の地域紛争、民族紛争の特徴を例をあげて説明、理解できる。 □現代の日本の諸課題(景気低迷 少子化 格差社会 環境問題など)をひとつあげ、今まで学んだ歴史から照射して整理、発表できる。</p> <p style="text-align: right;">国際 表現 環境</p>	<p>授業ノート提出 課題プリント提出 グループ学習 など 中間考査 学年末考査</p>

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅱ+α	5+2	2年英語人文コース	
教科書	新課程 高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 新課程 高等学校 数学B(数研出版) 新課程 高等学校 数学C(数研出版)	副教材	新課程 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B+C	

1. 学習の目標

式と証明、高次方程式(複素数を含む)、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、物事を論理的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する態度・力を養う。
数列においては並んだ数の規則性を見つけ第n番目を求めたり、和を求めたりという、数列の処理を学び、ベクトルでは図形処理(平面・空間)を計算で行うことを学ぶ。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。
【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。
【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 与えられた課題に対して、数学を用いて表現する力を評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシート 自分の学習に対する姿勢を誠実に振り返ることができるかを評価します。 ・週末課題(ノート)等 自分の理解状況に応じて、問題集に取り組み直し直しするなど、前向きに取り組む姿勢を評価します。

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標					学習活動
		到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
1	等式の証明	<input type="checkbox"/> 左辺または右辺のうち一方を変形して証明する証明法を理解し、利用できる。	<input type="checkbox"/> 左辺、右辺の両方を変形して証明する証明法を理解し、利用できる。	<input type="checkbox"/> 条件付きの等式の証明を理解し、利用できる。			小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	不等式の証明	<input type="checkbox"/> 実数の大小関係の基本性質を理解する。	<input type="checkbox"/> 両辺の差を利用して不等式の証明ができる。	<input type="checkbox"/> 両辺の平方の差を利用して不等式の証明ができる。	<input type="checkbox"/> 実数の平方の性質を利用して不等式の証明ができる。		
	2次方程式の解	<input type="checkbox"/> 解の公式を用いて2次方程式の解を複素数の範囲で求めることができる。	<input type="checkbox"/> 解の判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。	<input type="checkbox"/> 2次方程式の解の種類から、2次方程式の係数を求めることができる。			
	解と係数の関係	<input type="checkbox"/> 2次方程式の解と係数の関係から、解の和と積を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 解と係数の関係を用いて、対称式の値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 解と係数の関係を用いて2次方程式の係数を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 解の存在範囲の条件を満たすような値の範囲を解と係数の関係を用いて求めることができる。	<input type="checkbox"/> 解の存在範囲が複雑な条件を満たすような値の範囲を解と係数の関係を用いて求めることができる。	
	剰余の定理と因数定理	<input type="checkbox"/> 剰余の定理を用いて1次式で割ったときの余りを求めることができる。	<input type="checkbox"/> 因数定理を用いて、1次式の因数を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 3次以上の整式の因数分解をすることができる。	<input type="checkbox"/> 剰余の定理を用いて、整式を多項式で割ったときの余りを求めることができる。		
	高次方程式		<input type="checkbox"/> 因数分解の公式や置き換えを用いて、高次方程式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 因数定理を利用して3次以上の整式を因数分解し、高次方程式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 与えられた解を用いて高次方程式の係数を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 3次方程式の解と係数の関係を理解し、問題が解ける。	
	直線上の点	<input type="checkbox"/> 与えられた座標を直線上に図示することができる。	<input type="checkbox"/> 直線上における2点間の距離を理解している。 <input type="checkbox"/> 直線上における内分点・外分点・中点の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 直線上における2点間の距離を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 直線上における内分点・外分点・中点の座標を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 与えられた条件から、条件を満たす直線上の点の座標を求めることができる。		
	平面上の点	<input type="checkbox"/> 与えられた座標を平面上に図示することができる。	<input type="checkbox"/> 平面上における2点間の距離を理解している。 <input type="checkbox"/> 平面上における内分点・外分点・中点・重心の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 平面上における2点間の距離を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 平面上における内分点・外分点・中点・重心の座標を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 与えられた条件から、条件を満たす平面上の点の座標を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 2点間の距離を用いて、三角形の形状を調べることができる。	<input type="checkbox"/> 座標を用いて、等式の証明を行うことができる。	
	直線の方程式	<input type="checkbox"/> 直線の方程式から傾きと切片(xとy両方)を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 平面上に直線を描くことができる。	<input type="checkbox"/> 傾きと通る1点から直線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 通る2点から直線の方程式を求めることができる。			
	2直線の関係	<input type="checkbox"/> 2直線が平行・垂直であることの意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 平行条件と垂直条件を理解している。 <input type="checkbox"/> 点と直線の距離を理解している。	<input type="checkbox"/> 与えられた直線に平行・垂直な直線の方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 点と直線距離を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 線対称な点や垂直二等分線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 直線の方程式や点と直線の距離を用いて、三角形の面積を求めることができる。	
	円の方程式	<input type="checkbox"/> 円の中心と半径の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 円の方程式から中心と半径を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 中心と半径から円の方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 円の方程式の一般形から中心と半径を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 与えられた3点から円の方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 一般形の表す図形を判断することができる。	<input type="checkbox"/> 複雑な条件から円の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 三角形の外心の座標を求めることができる。	
	円と直線	<input type="checkbox"/> 円と直線の位置関係がイメージできる。	<input type="checkbox"/> 円と直線の位置関係と方程式の実数解の関係性を理解できる。 <input type="checkbox"/> 中心から直線までの距離と半径による位置関係を理解できる。	<input type="checkbox"/> 共有点の座標や位置関係から係数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 接点から接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 共有点の個数を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 円が直線から切り取る線の長さを求めることができる。	<input type="checkbox"/> 円と直線の交点を通る円の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複雑な条件から円の接線や円の方程式を求めることができる。	
	2つの円	<input type="checkbox"/> 2つの円の位置関係がイメージできる。	<input type="checkbox"/> 中心同士の距離と2つの半径による位置関係を理解できる。	<input type="checkbox"/> 2つの円の方程式から位置関係を調べることができる。	<input type="checkbox"/> 2つの円の位置関係から1つの円の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 2つの円の共有点の座標を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 2つの円が共有点を持つ条件(または持たない条件)を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 2つの円の交点を通る円の方程式を求めることができる。	
	軌跡と方程式	<input type="checkbox"/> 軌跡の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 与えられた条件を満たす点の軌跡をイメージできる。	<input type="checkbox"/> 座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(定点のみ)	<input type="checkbox"/> 座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(動点含む)	<input type="checkbox"/> 線対称な直線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> パラメータ表示で表された点が、どのような図形上を動くか求めることができる。	
不等式の表す領域	<input type="checkbox"/> 領域の意味を理解している。	<input type="checkbox"/> 与えられた不等式の表す領域をイメージできる。	<input type="checkbox"/> 領域を図示することができる。 <input type="checkbox"/> 境界線の有無を判断できる。	<input type="checkbox"/> 領域を証明に活用できる。 <input type="checkbox"/> 領域内の格子点の個数を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 線形計画法の問題を解くことができる。		
角の拡張	<input type="checkbox"/> 度数法において一般角を図示できる。	<input type="checkbox"/> 弧度法の定義を理解し、弧度法を度数法に変換することができる。	<input type="checkbox"/> 有名角の弧度法を覚えている。	<input type="checkbox"/> 弧度法を用いて、扇形の面積や弧長を求めることができる。			
三角関数	<input type="checkbox"/> 三角関数の定義を理解している。三角関数の符号の変化を理解している。	<input type="checkbox"/> 三角関数の値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 相互関係の式を覚えている。	<input type="checkbox"/> 有名角の三角関数の値を覚えている。 <input type="checkbox"/> 相互関係を利用して三角関数の値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 対称式を含む式の値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 相互関係を利用して等式の証明ができる。	<input type="checkbox"/> 複雑な式変形を伴う等式を証明できたり、式の値を求めることができる。		
三角関数のグラフ	<input type="checkbox"/> グラフの基本形をかきとることができる。 <input type="checkbox"/> 周期を理解している。	<input type="checkbox"/> グラフを平行移動・y軸方向に拡張することができる。	<input type="checkbox"/> グラフをx軸方向に拡大縮小することができ、周期を求めることができる。	<input type="checkbox"/> グラフの平行移動・x軸やy軸方向への拡大縮小を組み合わせてグラフの値を求めたり、周期を求めることができる。	<input type="checkbox"/> グラフの平行移動・x軸やy軸方向への拡大縮小を組み合わせてグラフを書くことができる。		
三角関数の性質	<input type="checkbox"/> 周期性を利用した等式や対称性を利用した等式を理解できる。	<input type="checkbox"/> 周期性や対称性を利用して値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> $\theta + \pi$ や $\theta + 1/2\pi$ の三角関数の値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> $\pi - \theta$ 、 $\pi/2 - \theta$ の三角関数の値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 複雑な式の値を求めることができる。		
三角関数の応用	<input type="checkbox"/> 角度が θ である三角関数の方程式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 角度が $\theta + n$ のタイプの方程式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 角度が $m\theta + n$ のタイプの方程式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 角度が θ の不等式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 角度が $\theta + n$ のタイプの不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 複雑な方程式・不等式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。		
加法定理	<input type="checkbox"/> 加法定理の基本の6つの式が書ける。	<input type="checkbox"/> 加法定理を用いて三角関数の値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 加法定理を利用して式の値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> tanの加法定理を利用して2直線のなす角を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 加法定理を利用して座標平面上の点を回転移動することができる。		
加法定理の応用	<input type="checkbox"/> 加法定理の基本の式から2倍角の公式や半角の公式が求められることを理解している。	<input type="checkbox"/> 2倍角の公式や半角の公式を正しく書ける。	<input type="checkbox"/> 2倍角の公式や半角の公式を利用して、値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数の合成ができる。	<input type="checkbox"/> 2倍角の公式や半角の公式を利用して方程式・不等式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 積和変換、和積変換を理解し、正しくかけ、問題に適用することができる。		

中間考査(80分)

期末考査(80分)

小テスト

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	地学基礎	2	2年英語人文コース	
教科書	高等学校 地学基礎 改訂版（啓林館）	副教材	地学基礎の基本マスター 四訂版（啓林館）	

1. 学習の目標

地球や宇宙の空間的・時間的スケールを正しく認識できるようになること。自然界では法則性が成り立っていることを理解できるようになること。科学的な手法が自然界を理解する際に有効であることを知り、探求の手段を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

授業ではノートを作成し、内容の理解に努めてください。ただ黒板を写すだけでは不十分です。後で見返したときに授業の内容を思い出せるよう、メモを書き加えてノートを作りましょう。授業終了後、ノートや教科書を使って確実な復習を心がけてください。理解できないところは積極的に質問し、理解を深めましょう。また、考査前には問題集を使って自分自身の理解を確認しましょう。問題集を1回解くだけでなく、理解できるまで何度も解き直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめとする）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	定期考査、実習レポート内容等 実習を正しく行うことができているか。ノート、課題、レポート等の提出状況 授業内容および課せられた課題を適切にまとめているか。
②思考・判断・表現 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	定期考査、実習レポート内容（考察）等 質問への回答（授業中の課題にしっかり答えられているか） 実習レポート・ノート等で独自の工夫と努力が認められるか。
③主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか。学習が不十分な場合、自ら進んで学習に取り組んでいるか。	受講態度、ノート・課題・実習レポート等の提出状況 ノートや課題にメモやポイントがまとめられているか・黒板を写しただけではなく、自分なりに調べてまとめたもの配布したプリントが整理され、貼り付けられているか。

4. 担当者からのメッセージ

地学は地震、火山、天気など日常と深く関わりのある分野です。興味・関心を持って学習し、日常生活で使えるように、生きた知識を身につけましょう。また地学は様々な分野（化学、生物、物理）と深く関わりのある学問です。これまでに習ったことと関連させて学習を進めましょう。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	2	2年英語人文・環境理数コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・ 集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・ 授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・ 正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・ 授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・ 日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・ 各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識及び技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等) 種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)
②思考力, 判断力, 表現力等 各教科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)学習カード(ロイロノート)
③学びに向かう力, 人間性等 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ○健康・安全に留意し、他者を尊重しながら主体的に運動に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気づくことができる。 ○他者との交流を目的とし、グループ内で体づくり運動を考えることができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解し、実生活に取り入れながら実践することができる。 	参加状況③ グループ活動②③ 発表②
	選択種目① A「球技」 「ネット型」 (テニス)(卓球)(バレーボール) 「ゴール型」 (ハンドボール)(バスケットボール) 「ベースボール型」 (ソフトボール)の中から選択	<ul style="list-style-type: none"> ○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができる。 ○このレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を設定できる。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
2	体育理論 ①スポーツにおける技能と体力 ②スポーツにおける技術と戦術 ③技能の上達過程と練習 ④効果的な動きのメカニズム ⑤体カトレーニング ⑥運動やスポーツでの安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①技能と体力の関係について説明できる。技能や体力を高めるを高めるときに気をつけるべき点をあげることができる。 ②技能の形の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を説明できる。 ③技能がどのようなステップを経て上達するか説明できる。練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。 ④体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのか説明できる。よい動きを支える調整力について例をあげて説明できる。 ⑤目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる。 ⑥スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを説明できる。スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生原因と予防方法を説明できる。 	レポート提出①② 小テスト①
	選択種目② B「陸上競技」 (ハードル走)(跳躍)(投擲)の中から選択 C「ダンス」 D「武道」 (剣道) BCDから3種目開講	BCD種目共通 ○個人種目の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○自分の課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができる。 ○このレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を設定できる。 B「陸上競技」 ○より速くへ(高く)跳ぶために自らの能力に応じた技能を習得している。 ○自分の能力に応じた技能で、遠くへ投げることができる。 C「ダンス」 ○踊ることに興味を持ち、自ら進んで学習することができる。 ○ダイナミックにリズムカルに踊ることができる。 D「剣道」 ○木刀による剣道基本技稽古法を理解し、互いに教え合うことができる。	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	選択種目③ A「球技」 「ネット型」 (テニス)(卓球)(バレーボール) 「ゴール型」 (ハンドボール)(バスケットボール) 「ベースボール型」 (ソフトボール)の中から選択	* 選択種目Ⅱについて、選択種目Ⅰで選択した以外の型の種目を選択しなければならない。 ○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができる。 ○このレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を設定できる。	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
3	陸上競技 (長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ○記録を向上させる楽しみや喜びを体得している。 ○自らの能力に応じた目標や課題を設定できる。 ○設定された長距離をより速く走ることができる。 ○長距離走の特性や技術を理解している。 ○運動強度を心拍数によって導き出すことができる。 ○生涯にわたって運動を継続するために、自分自身の運動を処方する力を身につけることができる。 	参加状況・準備片付け③ レポート提出①② 技能テスト①
	選択種目④ 「球技」1種目 (バドミントン)(サッカー)	<ul style="list-style-type: none"> ○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術やや集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。 	参加状況・準備片付け③ 技能テスト①

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語コミュニケーションⅡ	4	2年 英語人文コース	
教科書	LANDMARK English Communication II	副教材	Listening Laboratory Basic β	

1. 学習の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。

具体的な活動・領域は以下の通り。

(1) 聞くこと

日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(2) 読むこと

日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。

①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。

②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言葉を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。

③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・聞く、読む、話す、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	読む・聞く能力を身につけているか(小テストや定期考査) 基本的な語彙や文法事項を身につけているか(小テストや定期考査)
②思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話者や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり、伝え合ったりしている。	話す・書く能力を身につけているか(プレゼンやスピーキングテスト、ライティング課題) 相手の話と同調し、尊重しながらも自分自身の意見を伝えられるか(ディベート課題等)
③主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	自身の英語活動について主体的に学び、記録に残すことができているか(振り返り等) ワークシート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

1年生で身に着けた基礎を定着させ、さらに高度な文章を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりする力を伸ばしていきましょう。また、少しずつ進路を見据え、主体的に学習に励みましょう。研修旅行に向けて、継続的に国際交流を行っていきます。精一杯取り組み、語学力を磨くだけでなく、異文化の理解に努めてください。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第 2 学 年	○文単位で話すことができる ○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる	○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○論理表現IIで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる ○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のもたまった文を書くことができる	○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	○英語コミュニケーションIIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 ライティングテスト

		1	2
		文法事項（論理・表現IIと共通）	Lesson 1 ～ Lesson 8
知識 ・ 技能	Reading	ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Listening	ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Interaction	ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。
	Presentation	ターゲットとする文法を用いて話す技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える
	Writing	ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える
思考 ・ 判断 ・ 表現	Reading	文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を的確に捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Listening	話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を的確に捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して詳しく伝え合ったりしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して複数段落を用いて詳しく書いて伝えている。
主体的 に学 習に 取 り 組 む 態 度	Reading	文化理解を深め、書き手に配慮しながら主体的・自律的に読んでいる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	Listening	文化理解を深め、話し手に配慮しながら主体的・自律的に聞いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
自己評価			

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	論理表現Ⅱ	2	2年英語人文・環境理数コース	
教科書	My Way Logic and Expression Ⅱ	副教材	総合英語one、スタディサプリ等	

1. 学習の目標

1年次より継続して、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。
 ①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。
 ②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。
 ③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	単元で学習した語彙や表現、文法事項などについて理解しているか 学習した「知識」を基に、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝える技能を身に付けているか
②思考・判断・表現 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。	さまざまな日常的な話題や社会的な話題のテーマについて、情報や考え、気持ちについて話し続けたり、論理的に話して文単位で伝えることができるか、また論理的に50語程度の英文で書くことができるか
③主体的に学習に取り組む態度 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。	聞いたり読んだりしたこと基に、聞き手に配慮しながら自分の考えや気持ちを理由とともに伝え合おうとしているか。また、状況を把握し、粘り強く学習に取り組もうとしているか さまざまな日常的な話題や社会的な話題のテーマについて、情報や考えなどを理由や根拠とともに話そう、書こうとしているか

4. 担当者からのメッセージ

北稜高校2年生での論理表現Ⅱの目標は裏面のCAN-Do listにある①話すこと(やりとり)②話すこと(発表)③書くことの3つです。1年生で学習したことを基に、2年生では更に知識技能を身につけ、表現する力を養っていきましょう。また、研修旅行に向けての学校交流をするために、上記①②③の目標の到達は非常に大切です。主体的に学び、異文化の人たちとも自ら進んで交流する資質や、自身の考えを相手に伝えられる実力を養っていきましょう。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第3学年	<p>○対話の展開を意識して、やり取りすることができる</p> <p>○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる</p>	<p>○適切な表現を用いて、即興で自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現IIで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる</p>	<p>○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p> <p>○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる</p>	<p>○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第2学年	<p>○文単位で話すことができる</p> <p>○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる</p>	<p>○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現IIで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる</p>	<p>○ゆっくりであれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p> <p>○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる</p>	<p>○英語コミュニケーションIIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第1学年	<p>○フレーズ単位で話すことができる</p> <p>○英語らしい発音をすることができる</p>	<p>○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる</p>	<p>○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる</p> <p>○論理表現Iで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる</p> <p>○文構造を意識しながら英文を書くことができる</p>	<p>○日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる</p> <p>○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる</p>	<p>○英語コミュニケーションIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる</p> <p>○文構造を意識しながら英文を読むことができる</p>
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

観点別目標

知識・技能	話すこと（やり取り）	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身につけている。</p>
	話すこと（発表）	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて話す技能を身につけている。</p>
	書くこと	<p>〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。</p> <p>〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身につけている。</p>
思考・判断・表現	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	アクティブ・イングリッシュ	2	2年英語人文コース 選択	
第3学年	Cutting Edge 3rd edition	副教材		

1. 学習の目標

- ①全員英検準2級以上に合格することを目指す。
 ②プレゼンテーションやディスカッション、エクステンジに積極的に取り組み、4技能のレベルアップを目指す。
 ③日常生活の身近な話題について基礎的な英会話ができることを目指す。
 ④スピーキングにおいては、できるだけ正しい発音ができるよう、ルールを学び、訓練する。
 ⑤聞き手を意識しながら、英語で分かりやすい発表ができるよう、手法を理解し、実践する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習復習を欠かさず行うこと。
 授業以外に英語に触れる時間を確保すること。
 シャドーイングやオーバーラッピングなどのトレーニングを続けること。
 知らない表現や、知識などは必ず自分で調べるという姿勢を持つこと。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 外国語の学習を通して、言語やその運用についての	聞く・読む能力 小テスト、リスニング・リーディングテスト等
②思考・判断・表現 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ディスカッション、ディベート、ライティング課題等
③主体的に学習に取り組む態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況 英語を用いようとする積極性(読む、書く等の内容) ワークシート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

英語の中でもアクティブ・イングリッシュは特に実技科目です。四技能を含む活動の他、プレゼンテーションや実際の交流等(オンラインを含む)の活動を通してコミュニケーション能力を高めます。普段は日本語のみで生活している環境では、かなり意識して英語に触れる時間を確保しトレーニングしないと「使える英語」の力は身に付きません。愚直にトレーニングを続ければ必ず聞いたりしゃべったりする力は伸びます。頑張ってください。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 対話の展開を意識して、やり取りすることができる 英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 適切な表現を用いて、即興で自分の考えや興味・関心のあることについて話すことができる パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる 論理表現Ⅱで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる 定期考査 ライティングテスト	<ul style="list-style-type: none"> 英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる 簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる 定期考査 リスニングテスト	<ul style="list-style-type: none"> 少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる 定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 文単位で話すことができる 英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる 論理表現Ⅱで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる 定期考査 ライティングテスト	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりであれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる 定期考査 リスニングテスト	<ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーションⅡの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる 定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> フレーズ単位で話すことができる 英語らしい発音をすることができる パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる 論理表現Ⅰで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる 文構造を意識しながら英文を書くことができる 定期考査 ライティングテスト	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる 簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる 定期考査 リスニングテスト	<ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーションⅠの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる 文構造を意識しながら英文を読むことができる 定期考査 リーディングテスト

観点別目標

知識・技能	話すこと（やり取り）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身につけている。
	話すこと（発表）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて話す技能を身につけている。
	書くこと	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身につけている。
思考・判断・表現	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	話すこと（やり取り）	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。
	話すこと（発表）	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。
	書くこと	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語特講	2	2年英語人文コース	
教科書	Watching World (HAMASHIMA)	副教材	英語4技能型テストへのアプローチ1(数研)	

1. 学習の目標

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。具体的には、まとまりのある文章を読んだり聞いたりして、それをもとに自分の考えを英語で表現する力を育成する。また、世界中の文化についても学ぶ。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習: 語彙をチェックし、意味を確認しておく。必要な場合は、事前に英文を読んでおく。
 復習: 特にライティング・スピーキング面において、語彙を定着させ、学習した英文を暗唱できるレベルまで何度も音読(シャドウイング・オーバーラッピング等)し、その英文をスムーズに暗唱できるようにする。そのうえで、その英文をもとに自分の考えが伝えられるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。 (知識・技能)/(思考・判断・表現)	話す・書く能力 定期考査、小テスト、プレゼンテーションテスト
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。 (思考・判断・表現)	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解 (知識・技能)	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

「英語を知識として正確に覚え、知っている」という状態から「英語を使える」という状態に変えていきましょう。そのためには今まで以上に表現する(書く、話す)ことを大切にしていきましょう。授業で取り組んだだけでは英語の力は伸びません。授業以外にどれだけ英語に触れるか、自宅で何度トレーニングを繰り返すかがカギになります。正しい方法で取り組みれば必ず力は伸びます。頑張ってください。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第3学年	○対話の展開を意識して、やり取りすることができる ○英語の音声的な特徴を意識し、発音することができる	○適切な表現を用いて、即興で自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現Ⅱで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる	○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第2学年	○文単位で話すことができる ○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる	○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現Ⅱで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる	○ゆっくりであれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	○英語コミュニケーションⅡの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第1学年	○フレーズ単位で話すことができる ○英語らしい発音をすることができる	○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現Ⅰで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる ○文構造を意識しながら英文を書くことができる	○日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる ○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる	○英語コミュニケーションⅠの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる ○文構造を意識しながら英文を読むことができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

	1	2	3	4	5	6
	簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはっきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	自分について基本的な情報（名前・住所・家族など）を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話することができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜CANVAS（地域活性化プロジェクト）	1	2年生英語人文コース（選択）	
教科書	なし（プリントを準備します）	副教材	ポートフォリオを準備します	

1. 学習の目標

学校は地域とつながりを持ちながら教育活動を行っている一方で、そこで学ぶ高校生は、学校がおかれている地域とあまりつながっていないのが現状です。本プロジェクトでは地域に対する「課題発見力」や「課題解決力」をやしなうとともに、地域と連携しながらその魅力や課題について探究し、地域が幸せになるとともに、持続可能な地域活性化が達成される方策を提案します。このプロジェクトを通じて、大学の研究に連結するスキルを習得することも目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

常に予習が必要。①日常の登下校時、地域の様々な場所や事象を観察し、「はてな？」（なぜそうなのか？→「問い立て」）をたくさん発見し記録することが必要です。②発見した「はてな？」を解決するために、先行研究をしっかりと調べ「仮説」を立てます。③「仮説」を実証するために地域に出向き、地域の声に耳を傾け、観察をします（現地調査）。④現地調査から得られた結果をまとめ発表し（アウトプット）、⑤身近な人や地域の方から意見や質問をいただき内容を補正します（合意形成）。⑥最終結果を取りまとめ地域に提案・還元します。この流れを常に留意し実践します。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章による評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①地域の実態にあった「問い」を立てる力。 ②適切な方法で文献資料等を検索・活用する力。 ③調査結果等を他者にわかりやすく伝える力。
②思考・判断・表現 各単元の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①「やりたいこと」と「できること」を判断し実行する力。 ②適切な仮説をたてる力。 ③適切な調査方法を見いだす力。 ④調査結果を適切な方法でまとめて表現する力。 ⑤調査結果を地域に提案・還元する力。
③主体的に学習に取り組む態度 各単元が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度。 ②関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする態度。 ③他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする態度。

4. 担当者からのメッセージ

北稜CANVASは「調べ学習」ではありません。他者の調べた内容を発表することは不要です。このゼミでは「地域を幸せにするためには？」という大義（ミッション）のもと、個人・チームによって方法を模索しミッションを達成する「プロジェクト型探究」を実践します。授業は作業をするよりも予習等で得られた情報を交換をする時間です。地域にある「はてな？」をたくさん発見し、自分のアシでデータを集めてください。以下、昨年度履修者よりメッセージ(一部) ⇨自分から動かなければ何も始まらないと言うことを痛感した。先生に言われたことをやるだけじゃ進まないの自分から何をどうするべきなのか考えて言われなくても動くことがものすごく大切。様々な調査結果を組み合わせることで説得力のある資料ができることがわかった。「なぜ？」と思うものは身の回りに転がっていて意識すれば見つけるのは比較的簡単。だが、「なぜこうなるのか」を見つけるのは膨大な時間と幅広い人脈が必要なので、解決するためには計画性をもって取り組むとよい。常に最悪の事態を想定して計画を立てたり行動したりした方がいいです。複数でのプロジェクト進行になるので、1人のちょっとした失敗でプロジェクト全体に影響を及ぼすことも普通にあり得るから責任を持って取り組んでください。

2年生 北稜CANVAS（地域活性化プロジェクト） 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・問い立てをする ・先行研究を調べる ・仮説をたてる ・調査方法を考える ・調査計画をたてる <p>その他に、参考文献等の提示方法等も学ぶ</p> <p>* 講座内で小さな発表会を1～2回ほど行う</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いをたてることができる ・適切な方法で文献資料等を検索・活用できる <p>・【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やりたいこと」と「できること」を判断し実行できる ・適切な仮説をたてることができる ・適切な調査方法を見いだせる ・調べたことを適切な方法でまとめて表現できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境</div> <div style="background-color: #C00000; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">国際</div> <div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">表現</div> </div> <p>講義 演習 カウンセリング</p>
夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> ・調査をする ・調査の進展具合を報告する（オンライン登校日） 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を吟味し内容を発表できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に調査に出向くことができる 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">表現</div> </div> <p>オンライン レポート</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理する ・調査結果を適切な方法で表現する ・調査結果を共有し内容を鍛える <p>* 北稜祭等で実践する</p> <p>* 夏休みの調査報告会</p> <p>* 中間発表会</p> <p>外部発表エントリー</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる ・調査結果等を他者にわかりやすく伝えることができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を適切な方法でまとめて表現できる ・調査結果を地域に提案・還元できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">表現</div> </div> <p>カウンセリング 演習 発表</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・北稜探究デーに向けて準備・発表をする ・北稜探究アワードに向けて準備・発表をする ・まとめ <p>* 優秀発表の選考</p> <p>* 外部発表（フロンティア校発表等）</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる ・調査結果等を他者にわかりやすく伝えることができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を適切な方法でまとめて表現できる ・調査結果を地域に提案・還元できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度 ・関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする ・他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">表現</div> <div style="background-color: #C00000; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">国際</div> </div> <p>発表 レポート</p>

* 高大連携：京都光華女子大学

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	北稜CANVASⅡ	1	2年英語人文コース	
教科書	授業時にプリント配布	副教材	なし	

1. 学習の目標

2年生の探究では、自分自身の「マイテーマ」を出発点とし、問いを深め続ける探究を行う。本講座では、「自分の内面から生まれた問いを言語化する力」「問いを多角的に捉え、深め続ける力」「他者との対話や社会との接点を通して思考を更新する力」「自分なりの意味や立場を見出し、表現する力」を育てることを目標とする。必ずしも「正解」や「解決策」を出すことを目的とはしない。探究の過程を通して、自分の問いに誠実に向き合い続ける姿勢そのものを重視する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考查対策等について)

①身の回りや社会全体にアンテナを張り、「はてな?」(なぜそうなのか?→「問い立て」)をたくさん発見することが大切です。
 ②発見した「はてな?」を解決するために、先行研究をしっかりと調べ「仮説」を立てます。③「仮説」を実証するために地域に出向いて現地調査を行ったり、大学教員に意見を聞いたりするなど、探究を通して「つながり」を広げながら考えを深めていきます。
 ④最終報告を取りまとめ、他者に「伝える・伝わる」ことを意識して発表します。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考查までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①自分が興味のある「問い」を発見・設定する力。 ②適切な方法で文献資料等を検索・活用する力。 ③調査結果等を他者にわかりやすく伝える力。 ④自分が興味を持った「問い」を極め、社会課題を解決する力
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①「やりたいこと」と「できること」を判断し実行する力。 ②適切な仮説をたてる力。 ③適切な調査方法を見いだす力。 ④調査結果を適切な方法でまとめて表現する力。 ⑤調査結果を地域に提案・還元する力。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度。 ②関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする態度。 ③他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする態度。

4. 担当者からのメッセージ

探究は「受け身」では成り立ちません。あなたにしかない「なんでだろう! ?」「面白い!」を探し、究めてください。常に何かを「与えてもらう」立場から、自ら気づき、取り組み、社会の中の誰かに何かを「与えることのできる」そんな存在になってください。

令和 8 年度北稜CANVASシラバス

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・問い立てをする ・先行研究を調べる ・仮説をたてる ・調査方法を考える ・調査計画をたてる <p>その他に、参考文献等の提示方法等も学ぶ</p> <p>* 講座内で小さな発表会を1～2回ほど行う</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いをたてることができる ・適切な方法で文献資料等を検索・活用できる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やりたいこと」と「できること」を判断し実行できる ・適切な仮説をたてることができる ・適切な調査方法を見いだせる ・調べたことを適切な方法でまとめて表現できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする ・他者と協力し主体的に課題に取り組もうとする 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境</div> <div style="background-color: #e31a1c; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">国際</div> <div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 5px;">表現</div> </div> <p>北稜 CANVAS II</p>
夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> ・調査をする ・調査の進展具合を報告する（オンライン登校日） 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を吟味し内容を発表できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に調査に向かうことができる 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 5px;">表現</div> </div> <p>オンライン レポート</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理する ・調査結果を適切な方法で表現する ・調査結果を共有し内容を鍛える <p>* 夏休みの調査報告会</p> <p>* 中間発表会</p> <p>外部発表エントリー（希望者）</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる ・調査結果等を他者にわかりやすく伝えることができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を適切な方法でまとめて表現できる ・調査結果を地域に提案・還元できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 5px;">表現</div> </div> <p>カウンセリング 演習 発表</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・実践報告会に向けて準備する ・実践報告会（北稜CANVAS DAY・AWARD） ・まとめ <p>* 優秀発表の選考</p> <p>* 外部発表（探究エキスポ・フロンティア校発表等）</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理できる ・調査結果等を他者にわかりやすく伝えることができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を適切な方法でまとめて表現できる ・調査結果を地域に提案・還元できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度 ・関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする ・他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする 	<div style="text-align: center;"> <div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">表現</div> <div style="background-color: #e31a1c; color: white; padding: 5px;">国際</div> </div> <p>発表 レポート</p>

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な学習の時間	北稜CANVAS II（環境）	1	2年・英語人文コース 2年・環境理数コース	
教科書		副教材		

1. 学習の目標

- ・世界共通の課題である環境問題を自分事として捉え、主体的に探究活動を行う。
- ・探究の過程で、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付ける。
- ・共通の興味関心を持つ仲間と協働して課題解決に向けた試行錯誤をする中で、思考力・判断力を養う。
- ・プレゼンテーションを通して、探究した内容を他者に分かりやすく効果的に伝え、表現する力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

- ・講演や講義はメモを取りながら聞き、内容を自分でまとめられるようにする。さらに、疑問点や深めたいと感じる点を常に探し、グループ内で共有する。
 - ・調べ学習では、できるだけ複数の情報源を確認し、信憑性の高い情報を活用する。
 - ・探究活動では、計画を立て、観察・実験・実習、調査・研究、発表、討論などの学習活動を積極的に取り入れるとともに、自分たちの探究活動を客観的に振り返り軌道修正を行う。
 - ・グループ活動では、人任せにするのではなく自分の考えを持ち、どのような結論や提言を導くか、十分に討論してまとめる。
- ※週に1回の授業であるため、出された課題は計画的に取り組み、必ず期日内に提出する。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に

従って評価を行い、それらを総括して学年末に3段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・講義のレポート 講義の内容を正確に理解し、レポートにまとめているか ・発表 結果をプレゼンテーションで、文章、図、表、イラストなどを用いて、わかりやすく表現できているか。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・グループワークのレポート 適切な情報を集め、そこから結論や新たな課題を自分なりに考察できているか ・発表 探究した内容を、自分なりに工夫してわかりやすく効果的にまとめ、発表できているか
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・講義のレポート 積極的に参加し、感想や疑問点が整理できているか ・グループワークの様子 グループ内での役割をきちんと果たし、積極的に討論に参加しているか

4. 担当者からのメッセージ

この授業は、北稜高校が長年取り組んできた環境保護活動をさらに発展させ、年間を通じた授業という形で実施します。外部の専門機関と連携し、地球規模の課題を、自分事として様々な角度から探究します。また、3学期には探究した内容を小学生に伝える発表会を予定しています。この授業を通してみなさんが環境問題に関心をもつとともに、通常の授業ではできない体験を通して生きた学力を身につけましょう。

令和8年度北稜シラバス

学期	単元	単元の目標	学習活動	自己評価
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス(シラバス説明、授業担当者紹介) ・1年次の探究の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内交流 <p style="text-align: right;">表現</p>	
	講演	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の方の講演を聞き、様々な環境問題について研究的な知見を得るとともに、これから行う探究について、想起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演を聞く ・レポートにまとめる <p>環境 表現</p> <p style="text-align: center;">国</p>	
	探究テーマ決定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、興味のある環境問題について討論し、テーマを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内討論 <p>環境 表現</p>	
	探究活動①	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けた資料集めを行う。 ・必要な探究手法を学び、論の構築に必要な要素を班ごとに検討し、探究計画を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習 ・グループ活動 ・スライド作成 	
	探究計画発表	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に行う、校内発表や小学生への発表を見据えた計画を完成させ、発表を行う。 ・各班で互いの計画を検討し、内容を深めるためのアイデアを出し合い、客観的な視点を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド作成 ・プレゼンテーション <p style="text-align: right;">表現</p>	
2	探究活動②	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に行った計画発表を元に、軌道修正した内容で情報収集・調査・フィールドワークなどの探究活動を進める。 ・中間発表に向けた、ポスター作成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿作成 ・スライド作成 ・プレゼンテーション <p>環境 表現</p>	
	小学生との交流①	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期に交流を行う小学生と交流する場を持ち、小学生の環境問題に関する認識や興味関心を知る。そして、小学生にとってわかりやすい表現や内容を体感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流 <p>環境 表現</p>	
	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期までに行った、探究活動の成果を、文章や図、表、イラストなどを用いてポスターにまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 ・発表原稿作成 ・ポスター作成 ・プレゼンテーション <p>環境 表現</p>	
3	小学生との交流②	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に深めた内容や小学生との交流を元に、発表内容や方法の検討し、ポスターを製作する。 ・ポスターセッションの形態で、児童が興味のある発表を聞きにまわる。 ※明德小4年生と交流予定。 ・発表後の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 ・発表原稿作成 ・ポスター作成 ・プレゼンテーション <p>環境 表現</p>	

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	歴史総合	2	2年環境理数コース	
教科書	わたしたちの歴史(山川出版社)	副教材		

1. 学習の目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

受け身にならないためにも事前に教科書を一通り読んで、問題意識を持って授業に臨んでください。問題意識をもつためにも疑問に思ったことは恐れずに質問するか、自らの力で調べる努力をしてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・近現代の歴史の変化に関わる事柄について、広い視野から捉え、近現代の歴史が理解できる。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。 ※定期テストを中心に評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	学習した内容や調べた内容を多面的・多角的に考察できる。またその考察したことを説明したり、それらをもとに議論したりできる。 ※定期テスト、授業ノート提出、グループ学習を中心に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	現代と過去の関連性を認識し、現代の世界における諸課題への関心を深めている。 ・諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができる。 ※授業ノート・課題プリント提出および発表・授業に取り組む姿勢などで評価します。

4. 担当者からのメッセージ

現代日本や世界の姿を、歴史の到達点として学びます。日本史、世界史と縦軸・横軸に移動しながら考察する科目です。世界史・日本史の枠にとらわれることなく、近代化、グローバル化、そして大衆化の三点で新しい歴史像を創造していきましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習活動	
1	歴史の扉 学校の歴史 学校給食の歴史	□歴史のなかで学校の意義を理解することによって、「いま」の状況や課題を理解できる。 □日本の学校の特徴を国際比較のなかで整理できる。 □「学校給食の歴史」を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解できている。 <div style="text-align: right;">国際 表現</div>	小テスト 課題提出 グループ学習 など 期末考査
	第一部 近代化と私たち ・結びつく世界 ・18世紀の世界と東アジア ・産業革命 ・アヘン戦争と日本 ・日本の開国 ・日本開国期の国際情勢 ・開国後の日本社会 ・市民革命と国民統合 ・明治維新 ・富国強兵と文明開化 ・日本の明治初期の外交 ・大日本帝国憲法の制定 ・日本の産業革命と日清戦争 ・帝国主義 ・日露戦争と韓国併合	□18世紀の交通や交易の姿を理解するとともに、アジアや日本における生産と流通を大局的に理解できる。 □産業革命の基本的な構造を理解するとともに、それが世界に与えた影響について理解し、説明ができる。 □欧米諸国のアジア進出を理解するとともにアヘン戦争が日本に与えた影響(鎖国から開国に至るまで)を理解できる。 □市民革命と明治維新を、資料をもとに比較、考察できる。 <div style="text-align: right;">国際 表現 環境</div> □日本の近代化、特に文明開化について資料を収集して、その特徴を整理できる。 □東アジア各国と近代日本との関係を外交資料をもとに、考察・理解できる。 □大日本帝国憲法の内容を西欧諸国の憲法と比較し、さらに現憲法から照射することによって時代の空気をイメージできる。 □日清戦争前後の日本国内の産業発達を世界史との関わりで把握、理解できる。 □帝国主義の基本的な特徴を理解するとともに、地図上の作業で整理することによってイメージ化ができる。 □日露戦争前後の国際情勢および顛末を整理・理解できる。日本がはじめて経験した総力戦のあり方を太平洋戦争と比較・検討することができる。 □日朝関係史を古代から概観で把握するとともに、日韓併合後の植民地政策を整理・理解できる。	
2	第二部 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・大衆運動の芽ばえ ・第一次世界大戦 ・第一次世界大戦と日本 ・ロシア革命とその影響 ・社会運動の広がり ・国際協調 ・アジアの民族運動 ・大衆社会の到来 ・世界恐慌 ・独裁勢力の台頭 ・日本のアジア進出 ・第二次世界大戦 ・第二次世界大戦と日本 ・第二次世界大戦の終結 ・戦後国際秩序 ・冷戦の始まり ・日本の戦後改革と日本国憲法 ・日本の独立	□産業革命以降に芽生える大衆運動を普通選挙獲得運動、労働運動や女性解放運動など多角的な視野で把握することができる。 □第一次大戦に至る世界情勢を地図や勢力均衡図などの資料を通じて理解できる。 □第一次大戦に日本が参加した理由(中国での勢力伸長、経済危機の克服など)を資料を通じて理解するとともに、それが戦後の国際社会にどのような影響を与えたのか理解できる。 □ロシア革命のもつ意味、またそれが国際社会に与えた影響を理解するとともに、1920年代の日本の市民運動や社会運動の伏流水となっていく点を例をあげて説明できる。 □戦後の国際連盟誕生・軍縮の流れに日本がなぜ、どのように協調していったのか、国際社会との関係で理解できる。 □大戦景気により生まれる大衆消費社会が戦後恐慌以降の日本の景気低迷のなかでどのように展開していくのか、戦後のアメリカの経済繁栄とその破綻を視野に入れて説明・理解できる。 □戦後の共和国ドイツがナチス政権をなぜ受け入れていったのか、当時の資料をもとに考察・理解できる。 □日本の協調外交が破綻し、日中十五年戦争に突入していく流れを把握理解できる。 □第二次大戦に至る各国の意図を把握するとともに、独ソ戦に至るまでの流れを理解できる。 □太平洋戦争の流れ、及び戦時下の統制経済や国民生活を当時の資料をもとに分析、理解できる。 □大戦の終結に至る流れの中で「沖繩戦」「原爆投下」などの主題を分析し、考えを深めることができる。 □戦後の日本の民主化政策について多角的に理解できる。 □冷戦構造を世界地図をもとに把握するとともに、冷戦が日本の民主化に与えた影響を考察できる。 □日本国憲法の成立過程とその普遍的な性格を理解するとともに、冷戦のなかで憲法解釈がどのように変化していったのかを説明できる。 □冷戦のなかでの日本の独立とその性格(本土のみの独立)を把握するとともに、日本が国際社会でどのような地位を占めていくか展望できる。 □AALA諸国の独立により国際社会が三極化していく動きを把握する。 □キューバ危機から「雪どけ」の流れを概観し、その後の冷戦の展開を核軍縮の動きとともに理解できる。 □資料をもとに安保闘争の論点を整理することによって、冷戦のなかで成立した日米安保条約の問題点を浮き彫りにして整理できる。 □具体例をあげて高度経済成長の功罪を整理して説明できる。特に四大公害裁判については資料を収集して発表、説明ができる。 <div style="text-align: right;">国際 表現 環境</div>	小テスト 課題提出 グループ学習 など 期末考査
	第三部 グローバル化と私たち ・第三世界の登場 ・冷戦の固定化と「雪どけ」 ・冷戦の展開 ・55年体制と安保闘争 ・高度経済成長の光と影	□ベトナム戦争に介入したアメリカや米軍基地のある日本の動き・市民運動を新聞資料などをもとに分析して整理できる。 □70年代以降アメリカの国際社会からの後退と世界の五極化現象～冷戦の終結までを地図資料などをもとに分析、整理できる。 □80年代の日本の経済大国化からバブル崩壊までを具体的な例をあげながら説明、理解できる。 □冷戦終結後の地域紛争、民族紛争の特徴を例をあげて説明、理解できる。 □現代の日本の諸課題(景気低迷 少子化 格差社会 環境問題など)をひとつあげ、今まで学んだ歴史から照射して整理、発表できる。 <div style="text-align: right;">国際 表現 環境</div>	小テスト 課題提出 グループ学習 など 学年末考査

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅱ+B+C	5+1+1	2年環境理数コース	
教科書	高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 高等学校 数学B(数研出版) 高等学校 数学C(数研出版)	副教材	教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B 教科書傍用 4プロセス 数学C 数研出版 黄チャート 数学Ⅱ+B 数研出版 黄チャート 数学C	

1. 学習の目標

式と証明、高次方程式(複素数を含む)、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、物事を論理的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する態度・力を養う。

数列においては並んだ数の規則性を見つけ第 n 番目を求めたり、和を求めたりという、数列の処理を学び、統計的な推測では、統計的な手法を用いて社会に存在する諸問題を解決する手法を学ぶ。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。

【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。

【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 探究課題 与えられた課題に対して、数学を用いて表現する力を評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 課題提出 自分の理解状況に応じて、問題集に取り組み直しをするなど、前向きに取り組む姿勢を評価します。 授業への取り組み 授業に前向きに取り組んでいるかを評価します。

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

令和8年度北校シラバス

学期	学習内容	到達目標				学習活動	
		到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3		レベル4
1	等式の証明	□左辺または右辺のうち一方を変形して証明する証明法を理解し、利用できる。	□左辺、右辺の両方を変形して証明する証明法を理解し、利用できる。	□条件付きの等式の証明を理解し、利用できる。			小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	不等式の証明	□実数の大小関係の基本性質を理解する。	□両辺の差を利用して不等式の証明ができる。	□両辺の平方の差を利用して不等式の証明ができる。	□実数の平方の性質を利用して不等式の証明ができる。		
	2次方程式の解	□解の公式を用いて2次方程式の解を複素数の範囲で求めることができる。	□解の判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。	□2次方程式の解の種類から、2次方程式の係数を求めることができる。			
	解と係数の関係	□2次方程式の解と係数の関係から、解の和と積を求めることができる。	□解と係数の関係を用いて、対称式の値を求めることができる。	□解と係数の関係を用いて2次方程式の係数を求めることができる。	□解の存在範囲の条件を満たすような値の範囲を解と係数の関係を用いて求めることができる。	□解の存在範囲が複雑な条件を満たすような値の範囲を解と係数の関係を用いて求めることができる。	
	剰余の定理と因数定理	□剰余の定理を用いて1次式で割ったときの余りを求めることができる。	□因数定理を用いて、1次式の因数を求めることができる。	□3次以上の整式の因数分解をすることができる。	□剰余の定理を用いて、整式を多項式で割ったときの余りを求めることができる。		
	高次方程式		□因数分解の公式や置き換えを用いて、高次方程式を解くことができる。	□因数定理を利用して3次以上の整式を因数分解し、高次方程式を解くことができる。	□与えられた解を用いて高次方程式の係数を求めることができる。	□3次方程式の解と係数の関係を理解し、問題が解けることができる。	
	直線上の点	□与えられた座標を直線上に図示することができる。	□直線上における2点間の距離を理解している。 □直線上における内分点・外分点・中点の意味を理解している。	□直線上における2点間の距離を求めることができる。 □直線上における内分点・外分点・中点の座標を求めることができる。	□与えられた条件から、条件を満たす直線上の点の座標を求めることができる。		
	平面上の点	□与えられた座標を平面上に図示することができる。	□平面上における2点間の距離を理解している。 □平面上における内分点・外分点・中点・重心の意味を理解している。	□平面上における2点間の距離を求めることができる。 □平面上における内分点・外分点・中点・重心の座標を求めることができる。	□与えられた条件から、条件を満たす平面上の点の座標を求めることができる。 □2点間の距離を用いて、三角形の形状を調べることができる。	□座標を用いて、等式の証明を行うことができる。	
	直線の方程式	□直線の方程式から傾きと切片(xとy両方)を求めることができる。	□平面上に直線を描くことができる。	□傾きと通る1点から直線の方程式を求めることができる。 □通る2点から直線の方程式を求めることができる。			
	2直線の関係	□2直線が平行・垂直であることの意味を理解している。	□平行条件と垂直条件を理解している。 □点と直線の距離を理解している。	□与えられた直線に平行・垂直な直線の方程式を求めることができる。	□点と直線距離を求めることができる。	□線対称な点や垂直二等分線の方程式を求めることができる。 □直線の方程式や点と直線の距離を用いて、三角形の面積を求めることができる。	
	円の方程式	□円の中心と半径の意味を理解している。	□円の方程式から中心と半径を求めることができる。 □中心と半径から円の方程式を求めることができる。	□円の方程式の一般形から中心と半径を求めることができる。 □与えられた3点から円の方程式を求めることができる。	□一般形の表す図形を判断することができる。	□複雑な条件から円の方程式を求めることができる。 □三角形の外心の座標を求めることができる。	中間考査 小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など
	円と直線	□円と直線の位置関係がイメージできる。	□円と直線の位置関係と方程式の実数解の関係を理解できる。 □中心から直線までの距離と半径による位置関係を理解できる。	□共有点の座標や位置関係から係数を求めることができる。 □接点から接線の方程式を求めることができる。 □共有点の個数を求めることができる。	□円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 □円が直線から切り取る線分の長さを求めることができる。	□円と直線の交点を通る円の方程式を求めることができる。 □複雑な条件から円の接線や円の方程式を求めることができる。	
	2つの円	□2つの円の位置関係がイメージできる。	□中心同士の距離と2つの半径による位置関係を理解できる。	□2つの円の方程式から位置関係を調べることができる。	□2つの円の位置関係から1つの円の方程式を求めることができる。 □2つの円の共有点の座標を求めることができる。	□2つの円が共有点を持つ条件(または持たない条件)を求めることができる。 □2つの円の交点を通る円の方程式を求めることができる。	
	軌跡と方程式	□軌跡の意味を理解している。	□与えられた条件を満たす点の軌跡をイメージできる。	□座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(定点のみ)	□座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(動点含む)	□線対称な直線の方程式を求めることができる。 □パラメータ表示で表された点か、どのような図形上を動かすか求めることができる。	
	不等式の表す領域	□領域の意味を理解している。	□与えられた不等式の表す領域をイメージできる。	□領域を図示することができる。 □境界線の有無を判断できる。	□領域を証明に活用できる。 □領域内の格子点の個数を求めることができる。	□線形計画法の問題を解くことができる。	
	角の拡張	□度数法において一般角を図示できる。	□弧度法の定義を理解し、弧度法を度数法に変換することができる。	□有名角の弧度法を覚えている。	□弧度法を用いて、扇形の面積や弧長を求めることができる。		
	三角関数	□三角関数の定義を理解している。三角関数の符号の変化を理解している。	□三角関数の値を求めることができる。 □相互関係の式を覚えている。	□有名角の三角関数の値を覚えている。 □相互関係を利用して三角関数の値を求めることができる。	□対称式を含む式の値を求めることができる。 □相互関係を利用して等式の証明ができる。	□複雑な式変形を伴う等式を証明できたり、式の値を求めることができる。	
	三角関数のグラフ	□グラフの基本形をかきとることができる。 □周期を理解している。	□グラフを平行移動・y軸方向に拡張することができる。	□グラフをx軸方向に拡大縮小することができ、周期を求めることができる。	□グラフの平行移動・x軸やy軸方向への拡大縮小を組み合わせてグラフの値を求めたり、周期を求めることができる。	□グラフの平行移動・x軸やy軸方向への拡大縮小を組み合わせることでグラフを書くことができる。	
	三角関数の性質	□周期性を利用した等式や対称性を利用した等式を理解できる。	□周期性や対称性を利用して値を求めることができる。	□ $\theta + \pi$ や $\theta + 1/2\pi$ の三角関数の値を求めることができる。	□ $\pi - \theta$ 、 $\pi/2 - \theta$ の三角関数の値を求めることができる。	□複雑な式の値を求めることができる。	
三角関数の応用	□角度が θ である三角関数の方程式を解くことができる。	□角度が $\theta + n$ のタイプの方程式を解くことができる。	□角度が $m\theta + n$ のタイプの方程式を解くことができる。 □角度が θ の不等式を解くことができる。	□角度が $\theta + n$ のタイプの不等式を解くことができる。 □複雑な方程式・不等式を解くことができる。	□三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。		
加法定理	□加法定理の基本の6つの式が書ける。	□加法定理を用いて三角関数の値を求めることができる。	□加法定理を利用して式の値を求めることができる。	□tanの加法定理を利用して2直線のなす角を求めることができる。	□加法定理を利用して座標平面上の点を回転移動することができる。		
加法定理の応用	□加法定理の基本の式から2倍角の公式や半角の公式が求められることを理解している。	□2倍角の公式や半角の公式を正しく書ける。	□2倍角の公式や半角の公式を利用して、値を求めることができる。 □三角関数の合成ができる。	□2倍角の公式や半角の公式を利用して、不等式を解くことができる。	□積と変換、和積変換を理解し、正しくかけ、問題に適用することができる。		
					期末考査		

指数の拡張	<input type="checkbox"/> 指数が0や負の整数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 累乗根の意味と性質を理解し、それを含む式や値の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 指数が有理数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 様々な指数を含む式や値の四則計算をすることができる。	<input type="checkbox"/> 指数が実数の範囲まで拡張できること、負の数の累乗根の存在について理解している。
指数関数	<input type="checkbox"/> 指数関数の底について説明できる。	<input type="checkbox"/> 指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	<input type="checkbox"/> 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	<input type="checkbox"/> 平行移動・対称移動した指数関数のグラフをかくことができる。	<input type="checkbox"/> 関数の式から平行移動・対称移動を読み取ることができる。
指数関数の特徴	<input type="checkbox"/> 増加関数と減少関数について知っている。	<input type="checkbox"/> 指数関数のグラフから累乗根の値の変化を予測できる。	<input type="checkbox"/> 底の値によって、増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	<input type="checkbox"/> 底の値が異なる場合であっても大小関係を示すことができる。	
指数関数を含む方程式・不等式	<input type="checkbox"/> 指数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、解くことができる。	<input type="checkbox"/> 指数関数の特徴を理解し、指数関数を含む簡単な不等式を解くことができる。	<input type="checkbox"/> 底が異なる指数関数を含む方程式の解法を理解し、解くことができる。	<input type="checkbox"/> 底が異なる指数関数を含む不等式の解法を理解し、解くことができる。	<input type="checkbox"/> 指数関数を置き換えることにより、関数の最大値最小値を求めることができる。
対数とその性質	<input type="checkbox"/> 対数の意味と表し方を理解している。	<input type="checkbox"/> 指数と対数の関係を理解している。	<input type="checkbox"/> 底の変換公式などの対数の性質を理解し、様々な対数を含む式の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 底の変換公式などの対数の性質を利用し、複雑な対数を含む式の計算ができる。	
対数関数	<input type="checkbox"/> 対数関数の底について説明できる。また、指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	<input type="checkbox"/> 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	<input type="checkbox"/> 対数関数の特徴を理解し、底の値によって増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	<input type="checkbox"/> 指数関数のグラフと対数関数のグラフの対称性がわかる。さらに、平行移動・対称移動した指数関数のグラフをかくことができる。	
対数関数を含む方程式・不等式	<input type="checkbox"/> 真数条件について理解している。	<input type="checkbox"/> 対数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 対数関数を含む簡単な不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 対数の様々な性質を利用し、複雑な対数関数を含む方程式・不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 底の異なる指数関数の方程式・不等式を対数を利用して解くことができる。
常用対数	<input type="checkbox"/> 常用対数がどのような対数であるか理解している。	<input type="checkbox"/> 常用対数を整理し、常用対数表から値を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 常用対数が非常に大きい数や小さい数を表すときに便利であることを理解し、それを利用して桁数や小数の位を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 常用対数を利用して、非常に大きい(または小さい)値をとる指数の値を求めることができる。	
ベクトル ベクトルの演算	<input type="checkbox"/> ベクトルの向き、大きさ、相等について理解している。	<input type="checkbox"/> ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みや、逆ベクトル、零ベクトルについて理解している。	<input type="checkbox"/> 有効線分で表されたベクトルについて、和、差、実数倍を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 数式の演算法則との類似性を理解し計算することができる。	<input type="checkbox"/> ベクトルの一意性を理解し、有向線分で表されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。	
ベクトルの成分	<input type="checkbox"/> ベクトルの成分表示の仕方を理解している。	<input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算の仕方を理解している。 <input type="checkbox"/> 座標平面上の点とベクトルの成分の関係について理解している。	<input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。 <input type="checkbox"/> 成分表示された2つのベクトルの平行条件を理解し、計算に利用できる。	<input type="checkbox"/> 図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。
ベクトルの内積	<input type="checkbox"/> 内積の定義を理解している。 <input type="checkbox"/> 内積は実数であることを理解している。	<input type="checkbox"/> ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。	<input type="checkbox"/> ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。	<input type="checkbox"/> 内積の性質(計算法則)を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。	<input type="checkbox"/> 三角形の面積が内積で表せることを理解し、問題解決に利用できる。
位置ベクトル	<input type="checkbox"/> 位置ベクトルの考え方を理解している。	<input type="checkbox"/> 線分の内分点、外分点や三角形の重心を位置ベクトルで表す式を理解している。	<input type="checkbox"/> 線分の内分点、外分点や三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。	<input type="checkbox"/> ベクトルで表された等式を、位置ベクトルを用いて証明できる。	中間考査 小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
ベクトルの図形への応用			<input type="checkbox"/> 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。	<input type="checkbox"/> 線分上の点を、線分をs:(1-s)に内分する点として処理できる。	<input type="checkbox"/> 図形の性質を、位置ベクトルを利用して証明できる。 <input type="checkbox"/> 等式を満たす点の位置を求めることができる。
図形のベクトルによる表示		<input type="checkbox"/> 直線のベクトル方程式を理解している。	<input type="checkbox"/> 直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。	<input type="checkbox"/> 円や円の接線のベクトル方程式を理解している。	<input type="checkbox"/> ベクトル方程式を満たす点Pの存在範囲を求めることができる。
空間の点 空間ベクトル	<input type="checkbox"/> 空間における座標軸のとり方を理解し、点の座標、原点との距離などが求められる。	<input type="checkbox"/> 空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえ、和、差、実数倍の計算方法を理解している。	<input type="checkbox"/> 空間ベクトルの和、差、実数倍を求めることができる。	<input type="checkbox"/> ベクトルの一意性を理解し、空間のベクトルを、与えられた3つのベクトルで表すことができる。	
空間ベクトルの成分	<input type="checkbox"/> 空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて理解している。	<input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 座標空間の点と空間のベクトルの成分の関係について理解している。	<input type="checkbox"/> 空間内の与えられた点を頂点とする平行四辺形や平行六面体の他の頂点を求めることができる。	
空間ベクトルの内積	<input type="checkbox"/> ベクトルの内積を、平面から空間へ拡張して考察できる。	<input type="checkbox"/> ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。	<input type="checkbox"/> ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。	<input type="checkbox"/> 与えられた3点を頂点とする三角形の面積を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 内積の性質(計算法則)を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。
空間ベクトルの図形への応用	<input type="checkbox"/> ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解している。	<input type="checkbox"/> 空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察し、内分点や外分点の位置ベクトルを求めることができる。	<input type="checkbox"/> 空間において3点が一直線上にあるための条件を理解し、ベクトルで表現して利用できる。	<input type="checkbox"/> 3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。	<input type="checkbox"/> ある点が3点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。
空間における図形	<input type="checkbox"/> 座標空間における線分の長さや内分点・外分点の座標が求められる。	<input type="checkbox"/> 座標平面上に平行な平面の方程式を理解している。	<input type="checkbox"/> いろいろな球面の方程式が求められる。 <input type="checkbox"/> 球面の方程式から、中心、半径を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/> 座標平面上に平行な平面と球面の交わりの方程式を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 平面のベクトル方程式、直線のベクトル方程式を理解し、x, y, zの関係式を求めることができる。
数列と一般項	<input type="checkbox"/> 数の並びに興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	<input type="checkbox"/> 数列の定義、表記について理解している。	<input type="checkbox"/> 数列の一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	<input type="checkbox"/> 数の並びから、その規則性を発見することができる。	<input type="checkbox"/> 数の並びからその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。
等差数列	<input type="checkbox"/> 等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	<input type="checkbox"/> 等差数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	<input type="checkbox"/> 初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	<input type="checkbox"/> 等差中項の性質を理解し、問題を解くことができる。	
等差数列の和	<input type="checkbox"/> 等差数列の和を導く過程を理解しようとする。	<input type="checkbox"/> 等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	<input type="checkbox"/> 自然数の和、奇数の和、倍数の和などが求められる。	<input type="checkbox"/> 等差数列の和の公式を利用して、和の最大値などを求めることができる。	<input type="checkbox"/> 等差数列を満たす3数の和・積から、その3数を求めることができる。
等比数列	<input type="checkbox"/> 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	<input type="checkbox"/> 等比数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	<input type="checkbox"/> 初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	<input type="checkbox"/> 等比中項の性質を理解し、問題を解くことができる。	

等比数列の和	□等比数列の和を導く過程を理解しようとする。	□等比数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	□等比数列の和の値から数列の一般項を求めることができる。	□等比数列を満たす3数の和から、その3数を求めることができる。	□身近な例(複利計算)を考察し、解決できる。
和の記号 Σ	□記号 Σ の意味を理解し、 Σ の式を和の形で表すことができる。	□記号 Σ の意味を理解し、数列の和を Σ の式で表すことができる。	□自然数の和や2乗の和の公式を利用して和の計算ができる。	□数列の和を Σ で表し、和の計算を簡単に行うことができる。	□第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。
階差数列	□数列の規則性の発見に階差数列が利用できることを理解しようとする。	□階差数列を用いてもとの数列の一般項を導く過程を理解しようとする。	□階差数列を利用して、もとの数列の具体的に項の値が求められる。	□階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。	□初項から第n項までの和に着目して、一般項を求めることができる。
いろいろな数列の和		□分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより、和を求めることができる。(最初と最後に1つずつ分数が残るパターン)	□分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより、和を求めることができる。(最初と最後に2つずつ分数が残るパターン)	□(等差)×(等比)の形の数列の和を求めることができる。	□群数列を理解し、ある特定の属する数の和が求められる。
漸化式	□漸化式の意味を理解し、具体的に項の値が求められる。	□既習の等差数列・等比数列について、漸化式を用いて考察できる。	□既習の階差数列について、漸化式を用いて考察できる。	□漸化式が1次式で表される数列について、漸化式を適切に変形することにより、一般項を求めることができる。	□隣接3項間の漸化式に興味を持ち、考察しようとする。
数学的帰納法	□自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることが理解できる。	□数学的帰納法を用いて等式を証明できる。	□数学的帰納法を用いて不等式を証明できる。	□数学的帰納法を用いて、整数の性質を証明できる。	□様々な自然数nに関する命題の証明を、数学的帰納法を用いて証明しようとする。
確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散	□各事象の確率を求め、確率分布を求めることができる。	□確率変数の期待値、分散、標準偏差の求め方を理解している。	□ $aX+b$ の形の確率変数の求め方の公式を理解している。	□確率変数の期待値、分散、標準偏差の定義を理解しており、適切な手法を用いて求めることができる。	□期末考査 小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
確率変数の和と積	□同時分布について理解し、求めることができる。	□2つの確率変数の和や積について、期待値や分散の求め方を理解し、求めることができる。	□2つの確率変数の独立について理解し、確率変数の和や積の期待値や分散を、適切な求め方で求めることができる。	□3つ以上の確率変数の和や積について、期待値や分散の求め方を理解し、求めることができる。	□様々な条件が与えられた問いに対し、その条件を整理し、期待値や標準偏差を求めることができる。
二項分布	□反復試行の確率について理解し、求めることができる。	□二項分布について理解し、 $B(n,p)$ の形で表すことができる。	□二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。	□与えられた反復試行の条件から、二項分布の考え方を利用して期待値や分散を求めることができる。	
正規分布	□確率密度関数やその性質について理解している。	□確率密度関数が簡単な直線で表されるような確率変数に対し、面積を利用してその確率を求めることができる。	□正規分布に従う確率変数を、標準正規分布に従うように変数変換できる。	□正規分布表を用いて、正規分布や標準正規分布に従う確率変数に対し、与えられた確率を求めることができる。	□二項分布に従う確率変数に対し、標準正規分布に近似して確率を求めることができる。
母集団と標本 標本平均の分布	□標本調査に関わる語句を理解し、適切に用いることができる。	□試行の条件から、標本平均や、その期待値を求めることができる。	□母平均や母標準偏差を用いて標本平均の期待値や標準偏差を求めることができる。	□標本平均や標本比率がどのような正規分布に従うとみなせるかを求めることができる。	□標本平均や標本比率を近似的に正規分布に従うとみなして確率を求めることができる。
推定	□信頼区間を公式を用いて求めることができる。	□信頼区間の意味を理解し、求めることができる。	□信頼区間と、母平均や母比率の関係について理解している。	□信頼区間を用いて、母平均や母比率について考察することができる。	□適切な手法を用いて、実際の社会で起こりうる条件について考察し、述べることができる。
仮説検定	□仮説検定の手順について理解している。	□仮説検定の意味について理解している。	□仮説検定を、手順に沿って行うことができる。	□様々な有意水準について、適切な棄却域を設定し、仮説検定を行うことができる。	□片側検定、両側検定を適切に使い分け、様々な条件において仮説検定を行うことができる。
微分係数	□平均変化率を求めることができる。	□極限値の表し方や意味について理解し、それらを求めることができる。	□微分係数の定義とその表記の仕方を理解し、それを求めることができる。	□微分係数の関数のグラフにおけるその図形的な意味を理解している。	
導関数	□導関数がどのような関数であるか理解している。	□導関数を定義に従って求める式について理解している。	□様々な関数(x, y以外の変数であっても)の導関数を求めることができる。さらに、それを利用して微分係数を求めることができる。	□導関数を定義に従って求めることができる。□導関数を定義に従って求めた式から関数 x^t 及び定数関数の導関数の公式を予測できることを理解している。	□関数 x^n の導関数の公式を二項定理で証明することができる。
接線の方程式	□接線の傾きと微分係数の関係がわかる。	□グラフ上の点における接線の傾きを求めることができる。	□グラフ上の点における接線の方程式を求めることができる。	□グラフ上にない点から引いた接線の方程式を求めることができる。□定数tを用いて接線の方程式をたてることができる。	□接線の方程式を判別式の条件から求めることができる。
関数の増減と極大・極小	□関数の増減と導関数の符号の関係について理解している。	□関数の増減表を作成し、増減を調べることができる。さらに極値があるかを調べることができる。	□3次関数のグラフをかくことができる。さらに、その極値を求めることができる。	□3次以上の関数のグラフ作成、それらの関数の最大値・最小値を求めることができる。	
不定積分	□原始関数について理解している。	□不定積分や積分定数の意味とそれらの表し方を理解している。	□不定積分の性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	□導関数や関数値の条件から、もとの関数式を求めることができる。	
定積分	□定積分の表し方を理解している。	□定積分を求めることができる。	□定積分の様々な性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	□定積分を含む等式の関数の導関数の表記の仕方を理解し、それらを求めることができる。	
定積分と面積	□定積分の図形的な意味を知っている。	□曲線とx軸の間の面積を求めることができる。	□2つの曲線の間の面積を求めることができる。	□絶対値を含む関数や3次(4次)関数の面積を求めることができる。	□中間考査
放物線	□放物線の定義や、焦点、準線について理解している。	□焦点の座標や準線の方程式から、放物線の方程式を求めることができる。			□小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
楕円	□楕円の定義や焦点、長軸、短軸、標準形等について理解している。	□楕円の標準形から焦点、長軸、短軸の座標や長さを求めることができる。	□与えられた条件から、楕円の方程式を求めることができる。	□円と楕円の関係性を理解できる。	□点の軌跡が楕円になる場合について考察できる。
双曲線	□双曲線に関わる用語の意味を理解している。	□双曲線の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や漸近線の方程式を求めることができる。	□焦点や頂点の座標から放物線の方程式を求めることができる。	□双曲線の対称軸や対称点について理解するとともに、右辺が-1となる双曲線について考察できる。	□焦点が $y=x$ 上にある双曲線について理解し、方程式を求めることができる。
2次曲線の平行移動	□方程式 $F(x, y) = 0$ の書き方の意味を理解している。	□平行移動の公式を理解し、与えられた2次曲線の方程式を平行移動した方程式を求めることができる。	□与えられた方程式を変形し、方程式が表す図形を説明できる。	□平行移動された図形の方程式から、どのような図形か判断し、表現することができる。	□曲線の対称移動について理解し、対称移動された図形を方程式で表すことができる。
2次曲線と直線 2次曲線の性質	□2次曲線と直線の共有点の座標を求めることができる。	□2次曲線と直線の共有点の個数を、判別式を用いて求めることができる。	□外部の点から2次曲線に引いた接線の方程式を求めることができる。	□2次曲線上の1点における接線の方程式を求めることができる。	□離心率について理解している。□2次曲線に関わる軌跡を求めることができる。
曲線の媒介変数表示	□媒介変数表示される曲線について、媒介変数を消去することで、曲線の概要を求めることができる。	□一般角を用いた媒介変数表示について理解している。	□曲線の方程式を媒介変数を用いて表現することができる。	□一般角を用いた曲線の媒介変数表示から一般角を消去し、方程式で表すことができる。	□サイクロイドやアステロイド、カージオイドなどの曲線を表す媒介変数表示を理解できる。
極座標と極方程式	□極座標表示と直交座標表示の違いを理解している。	□極座標から直交座標に、直交座標から極座標に変換できる。	□さまざまな直線や円を極方程式で表すことができる。	□直交座標の方程式を極方程式の方程式に変換できる。	□極方程式を直交座標の方程式に変換できる。
3					□学年末考査

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	物理基礎	2	2年環境理数コース	
教科書	数研出版 新編 物理基礎	副教材	数研出版 新課程 リードα 物理基礎	

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・授業に集中し、授業内容をもその場その場で確実に理解する。
- ・授業時間数が少ないので、学んだ内容を問題集で演習しながら復習する。
- ・その際、答えに至る理由や計算式を必ず書くこと。他人が見ても分かる答案づくりを心がけること。
- ・学力は、基本の理解と演習量に比例するので、授業と自宅での学習にしっかりと取り組んでください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト(学習した内容を理解し、知識が定着しているか) ・実験レポート(実験の目的を理解し、授業での学習内容と関連づけてデータ分析できているか)
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト(答に至る思考過程を計算式や文章で相手に伝えるように書けているか) ・実験レポート(実験データを目的に応じて表やグラフで適切に表現し、発表する際、分かりやすく聞き手に伝えることができるか)
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業プリントの記入(板書だけではなく授業で大切だと思ったことや疑問点、より深く追究してみたいことなどが記入できているか) ・実験レポートの考察(実験の目的に沿ってデータを分析するとともに、自分で調べた内容を追加したり、新たに生じた疑問や課題を発見し探究しようとする姿勢が見られるか)

4. 担当者からのメッセージ

物理はすべての化学や生物、地学といった自然科学のベースとなる学問分野です。物理を理解すると、自然現象が起こる原因や仕組みがわかり、どんどん追究してみたいくなるはず。したがって、物理が分かるということは、答えを計算できるということではなく、その答えにいたる考え方が分かるということなのです。分からなかったことが分かるようになる面白さは格別です。是非あなたも、物理を学習することによって、分かることの醍醐味を味わってみてください。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
1	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1 速度 2 加速度 3 落体の運動	物体の速さが移動距離を経過時間で割ったものであることを理解している。 直線運動における加速度の定義を理解している。 自由落下や鉛直投射の落下運動について理解している。	小テスト 表 実験・観察レポート 学期ごとの自由研究課題	
	第2章 運動の法則 1 力とそのはたらき 2 力のつりあい 3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力	力は、物体の変形や運動状態の変化の原因となるものであり、向きと大きさをもったベクトル量であることを理解力 のつりあいについて理解している。 作用反作用の法則について理解している。 運動の法則について理解している。 運動方程式について、その立て方などを理解している。 どのようなときに静止摩擦力が生じるのか、また最大摩擦力の大きさが面の状態を表す静止摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解している。 液体や気体の中では物体は圧力を受けることや、圧力の式とその単位について理解している。	小テスト 表 実験・観察レポート 学期ごとの自由研究課題 〈期末考査〉	環境
2	第3章 仕事と力学的エネルギー 1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存	仕事の定義や仕事の原理について理解している。 運動エネルギーについて理解している。 重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて理解している。 力学的エネルギー保存則は、物体にはたらく力が保存力だけのとき、あるいは保存力以外の力がはたらいていてもその力が物体に対して仕事をしないときに成り立つことを理解している。	小テスト 表 実験・観察レポート 学期ごとの自由研究課題 〈中間考査〉	環境
	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1 熱と物質の状態 2 熱と仕事	温度、比熱、熱容量、熱量について理解している。 熱量の保存について理解している。 気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多いほど大きくなることを理解している。	小テスト 表 実験・観察レポート 学期ごとの自由研究課題 〈期末考査〉	環境
	3	第3編 波 第1章 波の性質 1 波と媒質の運動 2 重ね合わせの原理 第2章 音 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴	波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを理解している。 波の重ねあわせの原理では、2つの波がある点に同時に達したときの変位は、2つの波が単独に達したときの変位の和であることを理解している。 空間を伝わる音波は空気を媒質とする縦波であること、音の三要素について理解している。 弦の振動は、弦の両端を節とする定在波であることを、観察をもとにして理解している。気柱の固有振動は開端を腹、閉端を節とする定在波であることを理解している。	小テスト 表 実験・観察レポート 学期ごとの自由研究課題 〈学年末考査〉

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	化学	4	2年環境理数コース	
教科書	高等学校 化学（第一学習社）	副教材	三訂版 リードα 化学基礎＋化学（数研出版）	

1. 学習の目標

物質とその変化について、化学的な解釈や説明ができることを通して、興味・関心を探究心にまで高め、主体的に解決しようとする意欲を高めることができる。

自分自身で課題を見つけ、主体的・意欲的に観察、実験などに取り組むことができる。

化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解することができる。

物質やその変化に関する原理・法則を系統的に理解し、自然界の事物・現象を総合的に考察する能力を生かすことができる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査および小テストの成績、さらに実験レポート、長期休暇課題等も含めた平常点を総合的に評価する。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、小テスト 学習した内容が正確に理解されているか。 答えを導き出す過程が記されているか。 観察・実験の技能 実験器具等を正しく操作しているか。 ノート、課題、レポート等の提出状況 授業内容および課せられた課題を適切にまとめているか。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> レポート内容 結果のみでなく、考察がされているか。 観察・実験の表現、発表等 予想や考察内容が具体的に表現されているか。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席状況、受講態度 授業に集中し、意欲的に取り組んでいるか。 自分で工夫してノート等への記入を行っているか。 ノート、課題、レポート等の提出状況 提出期限を守って、提出されているか。

4. 担当者からのメッセージ

化学基礎で学習した内容を基にして、より専門的な内容を学習します。「化学」の面白さを実感するためには、自らが意欲的に学ぶ姿勢が大切です。実験実習も、より専門的な化学実験を行います。探究心を持って、実験に取り組み、「化学」の面白さを体験してください。

令和8年度北稜シラバス

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	【化学基礎】第2部 物質の変化			
	第3章 酸化還元反応			
	第1節 酸化と還元	・電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という指標を用いて酸化・還元を考え、理解を深める。	高等学校 化学 (第一学習社)	【 】
	第2節 酸化剤と還元剤	・酸化剤や還元剤のはたらきと、そのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元反応の量的関係も理解する。	CODを用いた水質 分析実験 表 環	【 】
	第3節 金属の酸化還元反応	・金属が水溶液中でイオンになる反応は、酸化還元反応の一つであり、イオンへのなりやすさ、つまり金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。		【 】
	【化学】第2部 物質の変化と平衡			
	第2章 化学反応と電気エネルギー			
	第1節 電池	・電解質水溶液と金属を利用することによって、電池ができることを理解する。それぞれの電池の電極における反応についても知る。また、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。	表	【 】
	第2節 電気分解	・水溶液を電気分解したときにどのような物質が生成するかを理解する。また、ファラデーの法則を学び、電気分解における反応物・生成物の量は流れた電気量と密接に関連していることを、演習を通して体得する。	中間審査 表	【 】
	第1部 物質の状態			
	第1章 固体の構造			
	第1節 粒子の結びつきと結晶	・物質が連続性をもたない小さな粒子からなること、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているかなどは化学基礎で学習しているが、ここで一通り復習する。また、非晶質については、通常の結晶との違いについて理解する。		【 】
第2節 結晶の構造	・イオン結晶の種類や表し方・特徴的な性質・構造、構造とイオン半径の比の関係について理解する。金属の結晶格子について、種類や密度、アボガドロ定数との関係を理解し、計算方法も体得する。		【 】	
第3節 アモルファス(非晶質)	・非晶質について通常の結晶との違いを理解し、非晶質の構造をもつ物質について学ぶ。		【 】	
第2章 物質の状態変化				
第1節 状態変化	・状態変化の原因が分子間力であることを理解し、そのときのエネルギーの出入りについても把握する。また、融点・沸点が物質の種類、とくに結合の種類によってどのように異なるかを、分子間力や化学結合の強弱から考察する。		【 】	
第2節 気液平衡と蒸気圧	・気液平衡の概念を理解し、蒸気圧、蒸気圧と沸騰の関係、物質の状態図についても学ぶ。	期末審査 表	【 】	
第3章 気体の性質				
第1節 気体の体積の変化	・気体の体積と圧力との関係、温度との関係が簡単な数式で表せることを学び、これに関連する絶対温度の概念を復習する。また、温度や圧力が同時に変化した場合に気体の体積がどうなるか考える。		【 】	
第2節 気体の状態方程式	・ボイル・シャルルの法則をもとにして気体の状態方程式を導くことができることを理解する。また、気体の種類によらず気体の状態方程式が成り立つことから、これを利用して気体の分子量の測定ができることを学ぶ。 ・混合気体について、ある体積をそれぞれの気体が単独で占めたときの圧力を考え、それらの関係がどのようにになっているかを理解し、さらに全体の圧力との関係も理解する。 ・気体に関する法則は、理想的な粒子を考えた場合に成り立つものであって、実際に自然界に存在する気体では、ずれが生じることを理解する。	中間審査 表	【 】	

2	第4章 溶液の性質 第1節 溶解平衡と溶解度 第2節 希薄溶液の性質 第3節 コロイド	<ul style="list-style-type: none"> ・飽和溶液の溶質、溶媒についてどのような量的な関係が成りたつかを考え、計算方法を体得する。 ・気体の溶解度は固体とは異なり、圧力と関係していることを理解し、計算方法も体得する。 ・希薄溶液では溶質に依存しない共通の性質が現れること、その影響は沸点や凝固点、浸透圧に及ぶこと、それを利用することによって分子量の測定ができることなどを実験を通して学ぶ。 ・コロイド溶液には、通常の溶液とは異なるさまざまな性質があることを理解する。とくに身近なところでいろいろな形で存在することを学ぶ。 	コロイド粒子を用いた水の浄水	環	[] [] [] []
	第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学反応と熱・光エネルギー				[]
	第1節 反応熱と熱化学方程式 第2節 ヘスの法則	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応の種類と反応熱および状態変化に伴う熱などの種類と定義を学び、これらを熱化学方程式で表すことができることを理解する。 ・ヘスの法則を用いると未知の熱量を計算で求められることを学ぶ。あわせて共有結合の結合エネルギーについても学ぶ。 			[] []
	第3章 反応速度 第1節 反応の速さ 第2節 化学反応と触媒	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応の速さの表し方や反応の速さを決める条件について、化学反応が起こるときの仕組みなどとの関係を理解する。 ・活性化エネルギー、触媒の働き方をもとに、化学反応の仕組みについて学ぶ。 			[] []
	第4章 化学平衡 第1節 化学平衡とその移動 第2節 電離平衡	<ul style="list-style-type: none"> ・化学平衡の状態やそのときの各成分の量的関係、条件の変化に伴う量的変化、ルシャトリエの原理をもとに化学平衡の移動について理解する。 ・水のイオン積とpH、弱酸や弱塩基の電離平衡を電離定数をもとに理解し、平衡移動の考え方をもとに緩衝液や塩の加水分解、難溶性塩の溶解について学ぶ。 	期末考査	表	[] []
3	第3部 無機物質 第1章 周期表と元素の分類				[]
	第1節 周期表と元素の分類 第2章 非金属元素 第1節 水素と貴ガス 第2節 ハロゲン 第3節 酸素・硫黄 第4節 窒素・リン 第5節 炭素・ケイ素	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の性質を周期表の位置と関連づけて理解する。 ①非金属元素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を考えたり、調べたりしようとする。 ・ハロゲンとその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。 ・酸素・硫黄とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。 ・窒素・リンとその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。 ・炭素・ケイ素とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。 	二酸化窒素濃度による大気分析実験	表 環	[] [] [] [] []
	第3章 典型金属元素 第1節 アルカリ金属 第2節 2族元素 第3節 アルミニウム 第4節 スズ・鉛	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ金属とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。 ・2族元素とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。 ・アルミニウムとその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。 ・スズ・鉛とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元、溶解度などと関連づけて理解する。 			[] [] [] []
	第4章 遷移元素 第1節 遷移元素 第2節 金属イオンの分離と確	<ul style="list-style-type: none"> ・遷移元素とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元、溶解度などと関連づけて理解する。 ・金属陽イオンが特定の陰イオンとの反応により分離できることを学ぶ。 	金属陽イオンの定性分析実験 学年末考査	表 環	[] []
		※R8はここまで			

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語コミュニケーションⅡ	4	2年 環境理数コース	
教科書	LANDMARK English CommunicationⅡ	副教材	Listening Laboratory Basic β	

1. 学習の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。

(1) 聞くこと

日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(2) 読むこと

日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。

①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。

②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。

③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・聞く、読む、話す、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	読む・聞く能力を身につけているか(小テストや定期考査) 基本的な語彙や文法事項を身につけているか(小テストや定期考査)
②思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話者や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり、伝え合ったりしている。	話す・書く能力を身につけているか(プレゼンやスピーキングテスト、ライティング課題) 相手の話と同調し、尊重しながらも自分自身の意見を伝えられるか(ディベート課題等)
③主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	自身の英語活動について主体的に学び、記録に残すことができているか(振り返り等) ワークシート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

1年生で身につけた基礎を定着させ、さらに高度な文章を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりする力を伸ばしていきましょう。また、少しずつ進路を見据え、主体的に学習に励みましょう。研修旅行に向けて、継続的に国際交流を行っていきます。精一杯取り組み、語学力を磨くだけでなく、異文化の理解に努めてください。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト

終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第 2 学 年	○文単位で話すことができる ○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる	○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のもとまった文を書くことができる ○論理表現IIで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる	○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	○英語コミュニケーションIIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 ライティングテスト

		1	2
		文法事項（論理・表現IIと共通）	Lesson 1 ～ Lesson 8
知識 ・ 技能	Reading	ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Listening	ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
	Interaction	ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。
	Presentation	ターゲットとする文法を用いて話す技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える
	Writing	ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える
思考 ・ 判断 ・ 表現	Reading	文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を的確に捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Listening	話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を的確に捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して詳しく伝え合ったりしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話すことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書くことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して複数段落を用いて詳しく書いて伝えている。
主体的 に学 習に 取 り 組 む 態 度	Reading	文化理解を深め、書き手に配慮しながら主体的・自律的に読んでいる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	Listening	文化理解を深め、話し手に配慮しながら主体的・自律的に聞いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
	Interaction	自分の意見や興味・関心のあることについて短い会話であれば、詳しく伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	Presentation	事前に準備をして、自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。
	Writing	自分の意見や興味・関心のあることについて筋道を立てて詳しく書こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
自己評価			

令和8年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	北稜CANVAS II 数学	1	2年 環境理数コース	
教科書	なし	副教材	なし	

1. 学習の目標

・これまでに学んだ知識や技能及び2年次で習得する知識や技能、論理的思考力を利用して、自ら課題を発見し、解決する力を高める。
 ・自ら見出した課題に対し、情報を集め、整理・分析して、表現することができるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施せず、毎時間ごとの参加と課題提出が基本となるので、欠席せず時間内に課題を仕上げるように取り組む。スピーチや発表では、話すこと、聞くことに積極的に取り組む。グループワークでは、様々な価値観を持つ他者と交流し、意見を交流しながらまとめていくようにする。出された課題は丁寧に取り組み、必ず期限内に提出する。また、1年次に学んだ数学 I A の内容を活用することがあるので、不安がある場合はしっかり復習しておく。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、文章によって評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
②思考力・判断力・表現力 知識技能を活用して課題解決するために必要となる思考・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・グループワークの様子 ・課題の提出状況 ・レポート、自己評価等

4. 担当者からのメッセージ

数学の内容を中心に、個人の興味に合わせた探究を行います。1学期はテーマ決めを中心に行い、夏休み以降に実験、調査、データ収集を行います。11月の中間発表を経て、3学期のCANVASDAYやAWARDに向けて準備を進めます。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス説明(北稜CANVASの目標、学習内容、評価等について) ・授業担当者自己紹介 	
	・自分の興味の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある分野や内容など、今後探究の題材にしていこうと思うものを他者と紹介しあい、視野を広げる。 ・それぞれの興味関心を客観視することで、今後の探究の方針を定めていく。 	・グループ交流
	・それぞれのテーマに沿って探究活動を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのテーマに沿って、情報を収集し、まとめていく。 ・互いに交流しあうことで視野を広げ、テーマに関する探究を深めてゆく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習 ・発表準備
2	・中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのテーマについて、現在の進行度を共有する。 ・互いのテーマについて客観的な感想を述べ、互いにフィードバックをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション <div style="text-align: right; background-color: #f4a460; padding: 2px 5px; border-radius: 5px;">表現</div>
	・それぞれのテーマに沿って探究活動を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表でのフィードバックをもとに、内容をさらに洗練していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習 ・発表準備
3	・最終成果発表	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の探究の成果を発表する。 ・発表のフィードバックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション <div style="text-align: right; background-color: #f4a460; padding: 2px 5px; border-radius: 5px;">表現</div>